岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第322集

芦名沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北新幹線盛岡・八戸間建設工事関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

芦名沢(あしなざわ)II遺跡発掘調査報告書

東北新幹線盛岡・八戸間建設工事関連遺跡発掘調査

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成10年度の岩手県教育委員会のまとめでは10,500箇所を越えております。これら先人たちの創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発に伴う社会資本の充実も県民の切実な願いであることは言うまでもありません。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和は今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団では、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は「東北新幹線盛岡～八戸間の建設工事」に関連して、平成10年度に発掘調査を行った岩手郡玉山村芦名沢Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。同遺跡からは縄文時代中期後葉の住居跡のほか、縄文時代早期から晩期にいたる土器や石器が発見され、ここに調査結果をまとめた報告書を発刊する運びとなりました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査及び報告書作成にご援助、ご協力を賜りました日本鉄道建設公団盛岡支社及び玉山村・岩手町両教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成11年12月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　船　越　昭　治

例　言

1．本報告書は、岩手郡玉山村大字馬場字芦名沢34－2ほかに所在する芦名沢Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2．本遺跡の発掘調査は東北新幹線盛岡～八戸間の建設工事に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と日本鉄道建設公団盛岡支社の協議を経て、㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3．岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号・遺跡略号は次のとおりである

　　遺跡番号　　ＫＥ47－1367

　　遺跡略号　　ＡＺⅡ－98

4．発掘調査期間は、平成10年10月１日～29日、発掘調査面積は590㎡である。室内整理期間は、平成11年２月１日～３月31日である。報告書の執筆と合わせて、ともに古館貞身・相津吉彦が担当した。

5．遺物の分析・鑑定は次の方々にお願いした。(敬称略)

石質鑑定…矢内桂三・柳沢忠昭　(花崗岩研究会)

6．本報告書作成にあたり、次の方にご協力・ご指導をいただいた。(敬称略)

熊谷常正（盛岡大学）

7．土層の観察は『新版標準土色帖』(小山・竹原：1992）によった。

8．遺跡内の基準点測量・基準杭の設置は、㈱ハイマー・テックに委託した。

9．調査成果の一部は『岩手県埋蔵文化財調査略報（平成10年度分）』（岩埋文311集）に概略を発表しているが本書の内容が優先するものである。

10. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターで保管・管理している。

11. 本報告書で使用した地形図は国土地理院発行のものであり、図中に図幅名と縮尺を記した。

目　　次

序
例　言
目　次

＜本文＞

Ⅰ．調査に至る経緯……3
Ⅱ．遺跡の位置と環境……3
　1．遺跡の位置と立地……3
　(1) 位置……3
　(2) 立地……3
　2．基本層序……5
　3．周辺の遺跡……6
Ⅲ．調査方法と整理方法……9
　1．野外調査……9
　2．室内整理……10
Ⅳ．検出された遺構と遺物……12
　1．竪穴住居跡……12
　2．焼土遺構……14
　3．土器・土製品……16
　4．石器・石製品……18
Ⅴ．まとめ……39
参考文献……40
抄　録……64

＜図版＞

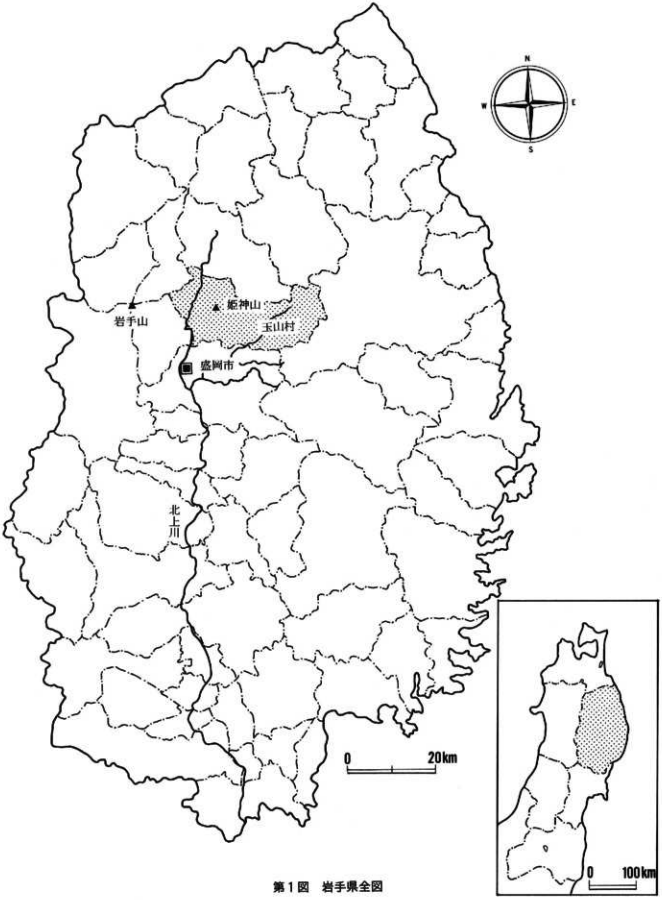
第1図　岩手県全図……1
第2図　遺跡位置図……2
第3図　調査区と周辺の地形……4
第4図　基本層序……5
第5図　周辺の遺跡分布図……8
第6図　凡　例……10
第7図　遺構配置図・グリッド配置図……11
第8図　ＲＡ０１竪穴住居跡・出土遺物……13
第9図　焼土遺構（ＲＦ０１～０４）……15
第10図　遺構外出土遺物・土器(1)……19
第11図　遺構外出土遺物・土器(2)……20
第12図　遺構外出土遺物・土器(3)……21
第13図　遺構外出土遺物・土器(4)……22
第14図　遺構外出土遺物・土器(5)……23
第15図　遺構外出土遺物・土器(6)……24
第16図　遺構外出土遺物・土器(7)……25
第17図　遺構外出土遺物・土器(8)……26
第18図　遺構外出土遺物・土器(9)……27
第19図　遺構外出土遺物・土器(10)
　　ミニチュア土器、土製品……28
第20図　遺構外出土遺物・土・石製品……29
第21図　遺構外出土遺物・石器(1)……30
第22図　遺構外出土遺物・石器(2)……31
第23図　遺構外出土遺物・石器(3)……32
第24図　遺構外出土遺物・石器(4)……33
第25図　遺構外出土遺物・石器(5)……34
第26図　遺構外出土遺物・石器(6)……35

＜写真図版＞

写真図版１　遺跡遠景（航空写真）……43
写真図版２　調査区……44
写真図版３　RA01 竪穴住居跡……45
写真図版４　焼土遺構・土器出土状況……46
写真図版５　RA01出土遺物、遺構外出土遺物・土器(1)……47
写真図版６　遺構外出土遺物・土器(2)……48
写真図版７　遺構外出土遺物・土器(3)……49
写真図版８　遺構外出土遺物・土器(4)……50
写真図版９　遺構外出土遺物・土器(5)……51
写真図版10　遺構外出土遺物・土器(6)……52
写真図版11　遺構外出土遺物・土器(7)……53
写真図版12　遺構外出土遺物・土器(8)……54
写真図版13　遺構外出土遺物・土器(9)……55
写真図版14　遺構外出土遺物・土器(10)ミニチュア土器……56
写真図版15　遺構外出土遺物・土・石製品……57
写真図版16　RA01出土遺物、遺構外出土遺物・石器(1)……58
写真図版17　遺構外出土遺物・石器(2)……59
写真図版18　遺構外出土遺物・石器(3)……60
写真図版19　遺構外出土遺物・石器(4)……61
写真図版20　遺構外出土遺物・石器(5)……62
写真図版21　遺構外出土遺物・石器(6)……63
写真図版22　遺構外出土遺物・石器(7)……64

＜表＞

第１表　周辺の遺跡一覧……6
第２表　遺物観察表（土器・土製品）……36
第３表　遺物観察表（石器・石製品）……38



第１図　岩手県全図

1：50,000　盛岡・沼宮内

第2図　遺跡位置図

Ⅰ．調査に至る経過

芦名沢Ⅱ遺跡は「東北新幹線盛岡～八戸間の建設工事」の施工に伴って、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することになったものである。

東北新幹線は昭和48年に盛岡～青森間の整備計画が策定され、平成３年に盛岡～沼宮内間及び八戸～青森間は新幹線鉄道直通線（ミニ新幹線）とし、沼宮内～八戸間は標準軌新線（フル規格新幹線）として実施計画が認可され、同年９月に盛岡～青森間の建設工事に着手した。その後、平成７年に盛岡～沼宮内間がフル規格新幹線に変更になり、現在、盛岡～八戸間96.6kmの新幹線工事が本格的に進められている。

また、八戸～新青森間については、平成10年３月に標準軌新線（フル規格新幹線）として実施計画の認可を受けて同年７月に八甲田トンネル出口の工事に着手している。

盛岡～八戸間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が平成７年度に分布調査を実施し、芦名沢Ⅱ遺跡も確認されている。その結果に基づいて岩手県教育委員会は日本鉄道建設公団盛岡支社に対し、事業について照会した。回答をうけた岩手県教育委員会は日本鉄道建設公団盛岡支社と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とする事とした。

これにより、岩手県教育委員会は平成10年度事業について、平成10年１月29日付け「教文第902号」により財団法人岩手県文化振興事業団に通知した。

これを受けて財団法人岩手県文化振興事業団は芦名沢Ⅱ遺跡について同年６月25日付けで委託契約を締結し、10月１日から発掘調査に着手した。

Ⅱ．遺跡の位置と環境

１．遺跡の位置と立地

(1)位置（第２図）

芦名沢Ⅱ遺跡は岩手県岩手郡玉山村大字馬場字芦名沢34－2他に所在し、東日本旅客鉄道東北本線好摩駅の東方2.6km付近に位置している。地形図上では、国土地理院発行の５万分の１地形図「沼宮内」(ＮＪ－54－13－13）の図幅に含まれ、北緯39度52分36秒、東経141度12分19秒付近である。

(2)立地（第３図）

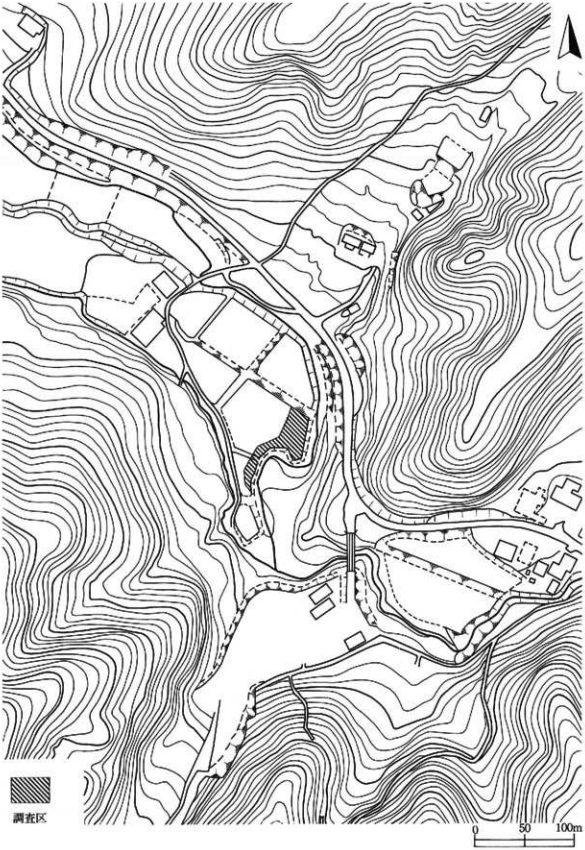
本遺跡の所在する玉山村は詩人石川啄木の故郷として全国的にも名高い場所である。県都盛岡市の北に隣接し、東は岩泉町、西は西根町・滝沢村、北は岩手町・葛巻町に接して、その範囲はほぼ東西に長く、南北に狭い形になっており、総面積は397.9㎢である。1954年（昭和29年）町村合併促進法により玉山村藪川村組合村と渋民村と合併し、さらに翌年には巻堀村を編入合併し、村名を「玉山村」、役場は渋民におき現在に至っている。

村の東部は外山高原、岩洞湖、早坂高原を含む北上山地によって占められ、その最高峰に標高1123.8mの姫神山があり、奥羽山系に属する岩手県の最高峰岩手山（標高2038.2m）に対峙している。

西部は、北上川が南流し、その流域に耕地が開けており、この北上川とほぼ並行して国道４号と東日本旅客鉄道東北本線が南北に走っている。

集落及び居住人口は、東部の山地が疎で、西部北上川沿いの低地部は密となっている。

またこの地域は岩手山系麓から岩手颪といわれる、春秋南西の風が強いが、北風はほとんど少なく、姫神



第３図　調査区と周辺の地形

山系側は比較的穏やかである。全般に奥羽山脈からの南西の季節風が強く、風害が雪をもたらしてくるので、昔は農家などでは華簾のすだれをめぐらし、風よけをつくったということである。

本遺跡は姫神山麓から北西に流れ北上川に合流する芦名沢川により形成された狭小な扇状地の扇央部に、芦名沢川が枝分かれした中州状を呈する微高地に立地している。調査区の標高は212m前後、芦名沢川との比高は約２ｍである。南側と北側に標高300m程の山を控え北西に向けて開かれているため10月段階で、この場所に日が当たるのは午前９時過ぎであり、午後３時を過ぎると日が陰り始めるいわゆる山間の窪地である。

現況は休耕田であるが、昭和30年代に圃場整備が行われ調査区内は全面的に整地されている。

２．基本層序（第４図　写真図版２）

本遺跡は前述のとおり、圃場整備により南西側の微高地から北東側の低地にかけて多量の土が動かされており、一部は地山面まで削平、撹乱をうけている。調査区の川沿い部分は水が湧出する面まで土が盛られている。また調査区中央部は表土を除去すると地山が検出されるので、東寄り部分で比較的堆積の厚いところを基本層序とした。

第Ｉ層　10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりややあり、植物根多量に混入、耕作土

第II層

II ａ層　10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 植物根混入、パミス微量に含む

II ｂ層　10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり10YR4/6褐色土を多量に混入

II ｃ層　10YR3/1 黒褐色土 粘性・しまりややあり パミス微量に含む

第III層　10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりありパミス少量含む

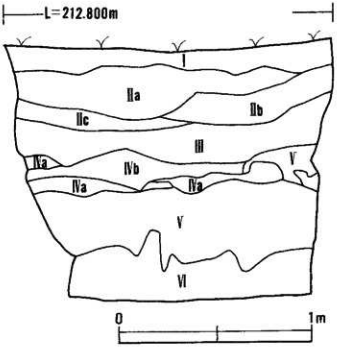
第IV層

IV ａ層　10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり スコリア混入

IV ｂ層　10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり 植物根パミス混入 10YR2/2 黒褐色土が斑に混入している

第Ｖ層　10YR2/3 黒褐色土 粘性・しまりややあり 植物根・パミス少量含む 第III層よりやや明るい

第VI層　10YR4/6 褐色土 粘性あり しまりややあり パミス少量、10YR2/3 黒褐色土混入



第４図　基本層序

第Ⅱ層は調査区の南西側のやや高いところから地山まで削って運ばれてきたものであり、第Ⅲ層は本来Ⅱ層の上にあった土が運ばれてきたものと思われる。なおⅢ層の下部から新しい陶器（すり鉢）の破片が出土している。Ⅳ層には一部水性堆積も観察できる。

遺物は各層から検出されるが特にⅡ・Ⅲ層で多く、Ⅳ層・Ⅴ層では少ない。出土遺物の新旧が層序に一致しない例が多々ある。

3．周辺の遺跡（第５図）

岩手県教育委員会文化課が作成した「岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧」によると、本遺跡のある玉山村には202箇所の遺跡が登録されている。これによるとその分布は、主に北上川東岸と、北上山地から北上川に注ぐ中小河川の周辺に多く集中しているのに対して、北上川西岸及び東部の北上山地においては疎らである。

ここでは、特に本遺跡の周辺の古代以前の遺跡に限って表と図にまとめてある。

番号	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物	市町村名
1	芦名沢Ⅱ	縄	散	縄文土器	玉山村
2	川口Ⅱ	縄	集	縄文土器(後)	岩手町
3	草桁	縄・弥	散	縄文土器(後)石器	岩手町
4	境Ⅲ	縄	集	縄文土器(中)	岩手町
5	上塩田	縄	散	縄文土器・ろくろ土器	岩手町
6	草桁	縄・弥	散	縄文土器	岩手町
7	秋浦Ⅳ	縄・弥	集	縄文土器(前・中)	岩手町
8	円満寺跡	縄	寺・集	縄文土器(中・後)	岩手町
9	秋浦Ⅰ	縄・古	散	縄文土器(前・後)	岩手町
10	秋浦Ⅲ	縄	散	縄文土器(後・晩)	岩手町
11	秋浦Ⅱ	縄・弥	集	縄文土器(中・後)土師器	岩手町
12	高梨	縄	集	縄文土器（中・晩）石器	岩手町
13	桑畑Ⅰ	縄・弥		縄文土器(後)弥生土器	岩手町
14	大石平	縄・古	散	縄文土器、土師器	西根町
15	永井沢Ⅰ	縄	集	縄文土器、土師器	玉山村
16	百目木		散	土器、土師器	玉山村
17	永井	平	集	土器、土師器、須恵器、武蔵土器	玉山村
18	永井沢Ⅱ		集	土器、土師器、須恵器	玉山村
19	十橋	縄	散	縄文土器、土師器	玉山村
20	飛屋	縄	散	縄文土器、土師器	玉山村
21	梨木平	縄・弥	散	縄文土器、弥生土器	玉山村
22	下平	縄・弥	散	縄文土器、弥生土器	玉山村
23	境平Ⅰ	縄	散	縄文土器、土師器	玉山村
24	千手観音堂	縄・弥・平	散	縄文土器、須恵器、弥生土器	玉山村
25	平森Ⅰ	縄	散	縄文土器(後)土師器	玉山村
26	才津沢	縄・弥・平	集	縄文土器、須恵器、弥生土器	玉山村
27	木宮Ⅰ	縄・平	散	縄文土器、土師器	玉山村
28	巻堀Ⅰ	縄	散	縄文土器(晩)	玉山村
29	巻堀Ⅱ	縄	散・集	縄文土器(晩)	玉山村
30	幅下Ⅰ	縄・弥	散	縄文土器(後)弥生土器	玉山村
31	幅下Ⅱ	縄・弥	散	縄文土器(後)弥生土器	玉山村
32	三枚石	縄・弥	散	縄文土器(中・後)弥生土器・土師器	玉山村
33	境平Ⅱ	縄	集	縄文土器	玉山村
34	平森Ⅱ	縄	散	縄文土器	玉山村
35	学校屋敷	縄	散	縄文土器	玉山村
36	古川	縄	集	土師器	玉山村
37	小袋Ⅰ		集	土師器	玉山村
38	小袋Ⅱ		集	土師器	玉山村
39	釜崎	縄	集	縄文土器、土師器	玉山村
40	元好摩	縄	散	縄文土器(前・中・後)土師器	玉山村
41	いたこ石		散	土器、土師器、須恵器	玉山村
42	梁袋Ⅰ		散	土師器？	玉山村
43	梁袋Ⅱ	縄	散	縄文土器	玉山村
44	馬場北	縄	散	縄文土器	玉山村
45	馬場中	縄	散	縄文土器、土師器	玉山村
46	馬場南	縄	散	縄文土器、土師器、磁器	玉山村
47	馬場Ⅰ	縄	集	縄文土器	玉山村
48	馬場Ⅳ	縄	散	縄文土器	玉山村
49	馬場Ⅱ	縄	集	縄文土器(中・末)	玉山村
50	小豆とぎ	縄	散	縄文土器、土師器	玉山村
51	狄小屋Ⅰ	縄	散	縄文土器(前・中)磨石、凝灰	玉山村
52	狄小屋Ⅱ	縄	散	縄文土器、土師器、フレーク	玉山村
53	狄小屋Ⅲ	縄	散	縄文土器	玉山村
54	沢田Ⅱ	縄	散	縄文土器、土師器	玉山村
55	沢山Ⅰ	縄	散	縄文土器	玉山村
56	沢田	縄	散	縄文土器	玉山村
57	沢田Ⅳ	縄・平	集・散	縄文土器、土師器、須恵器	玉山村
58	宇田Ⅴ	縄	集	縄文土器、土師器	玉山村
59	馬場Ⅲ	縄	散	縄文土器	玉山村
60	芦名沢Ⅰ	縄・平	散	縄文土器、土師器	玉山村
61	芦名沢Ⅳ	縄	散	縄文土器	玉山村
62	芦名沢Ⅲ	縄	散	縄文土器	玉山村

第１表　周辺の遺跡一覧(1)

番号	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物	市町村名
63	山館(小館)	縄・中	城・散	縄文上器(後)、土師器(後)、鉄製品、鉄滓	玉山村
64	高木II	縄	散	縄文土器(晩)土師器	玉山村
65	高木I	縄	散	縄文土器(中・後)	玉山村
66	上山I	縄	散	縄文土器	玉山村
67	上平山	縄	散	縄文土器	玉山村
68	下平田	弥	散	弥生土器	玉山村
69	沢田III	縄・平	集・散	縄文土器(前)土師器	玉山村
70	沢田VI	縄	散	縄文土器	玉山村
71	平田A	縄・平	散	縄文土器、土師器	玉山村
72	平田II	弥・平	散	弥生土器、土師器	玉山村
73	平山E	縄	散	縄文土器	玉山村
74	平田D	縄・平	散	縄文土器、土師器	玉山村
75	平田C	縄・平	集	縄文土器、土師器、須恵器	玉山村
76	平山F	縄・平	集	縄文土器(中)土師器	玉山村
77	平田沢	縄・弥	散	縄文土器(後)弥生土器、土師器	玉山村
78	平田G	古	散	土師器	玉山村
79	前山I	縄	散	縄文土器(晩)注口、底部、石皿、石匙、土偶	玉山村
80	前田II	縄	散	縄文土器(晩)	玉山村
81	武道III	縄	散	縄文土器	玉山村
82	昼久保II	縄	散	縄文土器	玉山村
83	昼久保III	縄・平	散	縄文土器、土師器	玉山村
84	昼久保IV	縄	散	縄文土器	玉山村
85	昼久保V	縄・弥	散	縄文土器、東北式土器	玉山村
86	武道II	縄	散	縄文土器	玉山村
87	武道IV	縄	散	縄文土器	玉山村
88	武道I	縄・平	散	縄文土器、土師器	玉山村
89	八幡館	縄	散	縄文土器	玉山村
90	武道東	縄	散	縄文土器	玉山村
91	昼久保I	縄	散	縄文土器(中・後)、土偶	玉山村
92	山原	縄・弥	散	縄文土器、弥生土器、土師器	玉山村
93	合羽沢	縄	散	縄文土器(晩)土師器	玉山村
94	水上	縄	散	縄文上器(後)	玉山村
95	田の沢B	縄	散	縄文土器(後・晩)弥生土器	玉山村
96	大坊石	縄	散	縄文上器	玉山村
97	山屋II	縄	散	縄文土器	玉山村

番号	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物	市町村名
98	山屋III	縄	散	縄文土器	玉山村
99	山屋V	縄	散	縄文土器	玉山村
100	山屋館	縄・中	散・城	縄文土器、土師器、平場	玉山村
101	沢目	縄	散	縄文土器	玉山村
102	山屋IV	縄	散	縄文上器	玉山村
103	山屋開墾	縄	散	縄文土器	玉山村
104	田の沢	縄	散	縄文土器(後・晩)土師器	玉山村
105	田の沢C	縄	散	縄文土器(後)	玉山村
106	田の沢D	縄	散	縄文土器	玉山村
107	牛丹野		散	土師器	玉山村
108	鶴塚	縄	散	土師器	玉山村
109	泉田	縄	散	縄文土器	玉山村
110	小前田I	縄	散	縄文上器	玉山村
111	小前田II	縄	散	縄文土器	玉山村
112	大森I	平	散	土師器	玉山村
113	越戸	平	散	土師器	玉山村
114	小長根II	縄	散	縄文土器	玉山村
115	旅民東裏	縄	散	縄文土器	玉山村
116	長渡	縄・平	散	縄文土器、土師器	玉山村
117	小長根I	縄	散	縄文土器	玉山村
118	愛宕裏A	縄	散	縄文土器、土師器	玉山村
119	愛宕裏B	縄	散	縄文土器	玉山村
120	愛宕裏C	縄	散	縄文土器	玉山村
121	大森IV	縄	散	縄文土器	玉山村
122	大森III	縄	散	縄文土器	玉山村
123	大森II	縄	散	縄文土器	玉山村
124	大森III	縄	散	縄文上器	玉山村
125	館石	縄	散	縄文土器	玉山村
126	館石II	縄	散	縄文土器	玉山村
127	館石III	縄	散	縄文土器	玉山村
128	山屋沢目	縄	散	縄文土器(後・晩)石斧、土偶	玉山村
129	寺の沢	縄	散	縄文土器 (晩)	玉山村
130	大谷地頭	縄	散	縄文上器、石鏃	玉山村
131	大谷地	縄	散	縄文土器、土偶	玉山村

縄…縄文　弥…弥生　古…古代　平…平安　中…中世
散…散布地　集…集落地　城…城館跡　寺…寺院跡

第1表　周辺の遺跡一覧(2)

1：50,000　盛岡・沼宮内

第５図　周辺の遺跡分布図

Ⅲ．調査方法と整理方法

1．野外調査

(1)グリッドの設定

調査区の座標設定とグリッドを設定するにあたっては、平面直角座標（第Ⅹ系）を用いた。設定した座標の基準点は以下のとおりである。

基準点1	X＝−13,598.000m	Y＝31,828.000m	標高＝213.093m
基準点2	X＝−13,622.000m	Y＝31,828.000m	標高＝212.615m
補　点1	X＝−13,622.000m	Y＝31,816.000m	標高＝212.635m

調査範囲をカバーできるグリッドを設定するにあたっては、原点を北西に置き、20m間隔で西から東にⅠⅡⅢ…、北から南に向かってＡＢＣ…として大グリッドを組んだ。さらに各グリッドを４m四方の小グリッドで25等分し、西から東そして北から南に01～25と割り当てて、小グリッド名を表すこととした。各グリッドの呼称はＡⅠ01、ＣⅡ25等とし各区画の北西隅の杭をもってそのグリッドの呼称とした。

(2)粗掘と精査

調査区はほぼ平坦な地形であるが、文化課の試掘結果によると整地が行われており、南西の微高地から北東の低地に多量の土が動かされている模様であった。よって原地形と整地層を確認する意味も兼ねてトレンチを地形に合わせて設定し、調査区の状況把握につとめた。

その結果、調査区中央部においては地山面まで削平をうけており、一部には重機のキャタピラ痕が残されている箇所もあった。東及び北東部の川に近い部分は元々低地で、ここに大量の盛り土がなされて平坦な耕作面が造られていることが分かった。但し、調査段階では、ここに重機の搬入路を確保できなかったため、全て人力により、層位に基づいてトレンチを拡大する方法で遺構検出を行った。

精査は原則的に住居跡、炉跡につては４分法で、他は２分法で埋土の観察を行った。

調査面積は590㎡である。

(3)遺構の記録

遺構の記録は、写真撮影と実測図の作成により行った。

写真撮影は35mm判モノクロームとカラースライド各１台、モノクローム６×７cm判１台を使用した。さらにポラロイドカメラもメモ的に使用した。

実測は簡易遣り方測量で行い、原則として1/20の縮尺を基本とした。平面図はグリッドに合わせた１mメッシュを測量基線とし、断面図は水平水糸を張って実測の基線とした。

(4)遺物の取り上げと遺構の呼称

遺物のほとんどは遺構外出土である。よって出土地点をグリッド名で表し、基本層序に基づいて取り上げた。

遺構の呼称は竪穴住居跡はＲＡ01、焼土遺構はＲＦ01、02、03、04とした。

2．室内整理

(1)遺物の処理

取り上げた遺物は、野外調査と並行して雨天時に水洗し、室内に戻ってからは注記、接合、復元を行った。その後、報告書掲載用のものを選別して台帳に登録し、実測、拓影図作成、計測、トレース、写真撮影を行ってから遺物図版作成を行った。

石器についても同じ手順で進めた。但し石器については代表的なものを選択して掲載した。

なお、石器の欠損しているものの数値はカッコ書きとした。

(2)遺物図版

遺構から出土したものは遺構別に掲載した。土器については遺構外出土のものは縄文時代早期から始めて晩期へと並べるように努めた。石器は器種ごとに掲載した。

縮尺は土器及び土製品は3分の1、石器は2分の1、3分の2を原則とし、図中には縮尺比を表すスケールを付した。

(3)遺構図面

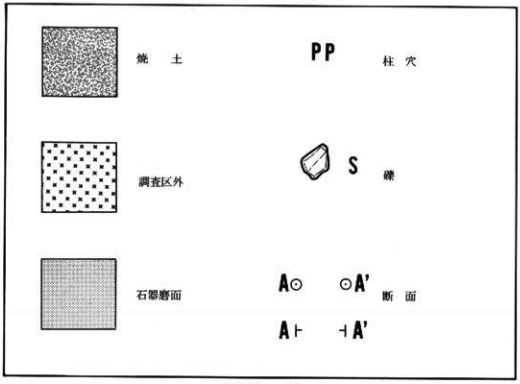
各遺構の図面は点検のうえ、必要なものについては第二原図を作成し、トレースを行った。図版作成に当たっては縮尺を1/40とし、各図にスケールを付した。

(4)写真図版

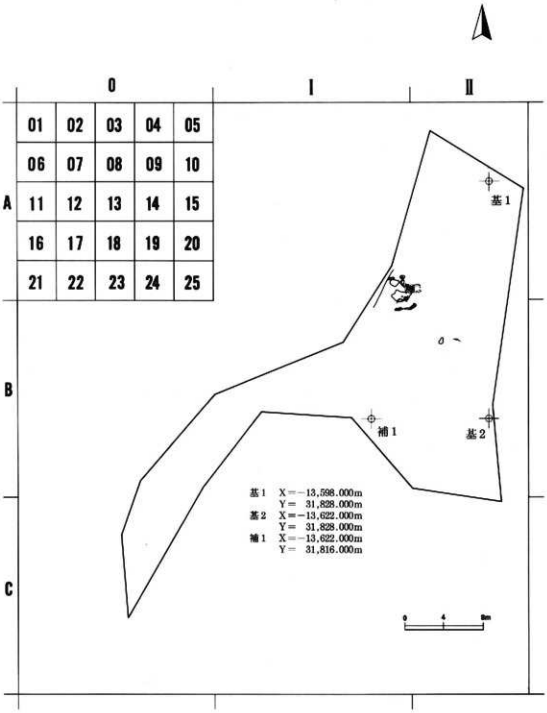
遺物の写真図版については各図に縮尺を付したが、遺構の写真図版は縮尺不定である。

遺物の個々の番号は遺物図版の番号と一致している。

図中に使用した記号・スクリーントーンの凡例は図6のとおりである。



第6図　凡例



第７図　遺構配置図・グリッド配置図

Ⅳ．検出された遺構と遺物

検出された遺構は、複式炉を持つ竪穴住居跡１棟、焼土遺構４基である。遺物については縄文土器が当センターで使用している大コンテナ（42×32×30cm）６箱、石器は小コンテナ（42×32×10cm）１箱である。

前述のとおり調査区は、圃場整備のために整地されており、調査面積の60%程が地山まで削平されている。北東、及び東側の川沿いの低地にかけて盛り土された部分には下部に整地層ではない土層が残されていたが、ここは斜面になっているところであり、ここからの遺構検出は焼土遺構１基（ＲＦ０４）のみであった。

１．竪穴住居跡

ＲＡ０１竪穴住居跡

遺構（第８図　写真図版３）

〈位置・検出状況〉ＡＩ25グリッド周辺に位置する。休耕田の耕作土（Ⅰ層）直下にあり、周辺は削平されていた。床面の一部と柱穴、周溝の一部、炉を検出した。西側は調査区外にかかる。

〈規模・平面形〉不明であるが、周溝の周り具合からみると直径４ｍ前後か。平面形は円形か楕円形になると思われる。

〈埋土〉ほぼ単層。田圃の耕作土であり、削平をうけているため埋土とは言えない。

〈壁・床面〉壁は前述のとおり調査区内では検出されず不明である。Ⅵ層を床面としているが周囲が削平されているため、或いはⅥ層を掘り込んでつくられたのかもしれない。床面は堅く締まり、ほぼ平坦である。一部に周溝がまわっている。ほぼ中央北寄りに大きな花崗岩が床面に埋まっている。

〈柱穴〉２基検出した。複式炉の軸線にほぼ直行する形で、石囲い部の両側である。いずれも床面での検出であり、その配置から見てもこの住居跡に伴うものと思われる。

	ＰＰ１	ＰＰ２
直径cm	36×30	42×46
深さcm	46	53

〈壁溝〉炉の石囲い部の南側1.2mの地点から緩い弧をを描くように西側にのびているが、断片的である。幅は20cm前後、最深部で約18cmである。

〈炉〉住居内の東よりの箇所に複式炉を検出した。石囲い部が三つに仕切られており、東端部は火をうけた形跡はないが、他の二箇所は火をうけていた。特に中央の箇所は石敷きがなされており、石の間には炭化物が散乱し、石そのものも火をうけている。もう一つの西よりのものは石囲い部が一部しか残っておらず、元々そのような形であったか、壊されたものかは分からないが、ここには焼土が発達している。

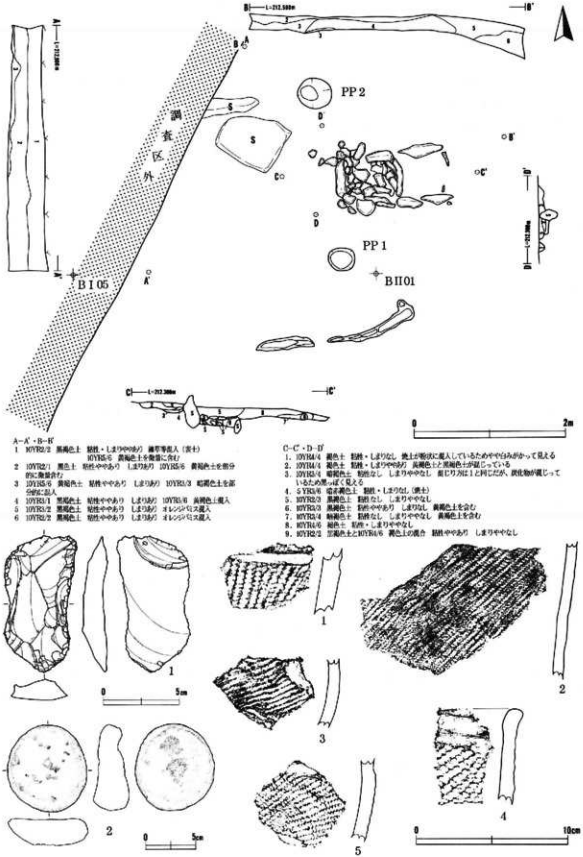
遺物　（第８図　写真図版５、１６）

床面に近いところ及び炉の埋土から縄文土器と石器が出土している。

〈土器〉縄文土器が５点出土しており、うち３点は炉の埋土からである。中期後半のものと思われる。

〈石器〉２点出土しており、１は削器、２は磨石である。

時期　出土遺物及び住居跡に伴う炉の形態から、縄文時代中期後葉と思われる。



第８図　RA01竪穴住居跡・出土遺物

2．焼土遺構

ＲＦ０１焼土遺構（第９図　写真図版４）

〈検出状況〉ＢＩ05グリッドの北東端、一部は北隣のＡＩ25グリッドにかかる。Ⅱｂ層で検出。

〈規模・平面形〉東西に細長い不整形で長径約80cm

〈厚さ〉最大で10cm

〈遺物〉出土していない。

〈時期〉　不明である。Ⅱｂ層は整地層であるためこの焼土は異地性のものか、もしくは新しいものと思われる。

ＲＦ０２焼土遺構（第９図　写真図版４）

〈検出状況〉ＡＩ25グリッドの東寄り、Ⅱｂ層で検出。

〈規模・平面形〉長径55cm×35cmの南北にやや長い楕円形。

〈厚さ〉最大で５cm

〈遺物〉出土していない。

〈時期〉不明である。ＲＦ０１と同じと思われる。

ＲＦ０３焼土遺構（第９図　写真図版４）

〈検出状況〉ＡＩ25グリッドの東南端、一部ＡⅡ21とＢＩ05グリッドにかかる。Ⅱｂ層で検出。

〈規模・平面形〉最大幅200cm×110cmの不整形な方形。

〈厚さ〉最大で９cm

〈遺物〉出土していない。

〈時期〉不明である。ＲＦ０１と同じであると思われる。

ＲＦ０４焼土遺構（第９図　写真図版４）

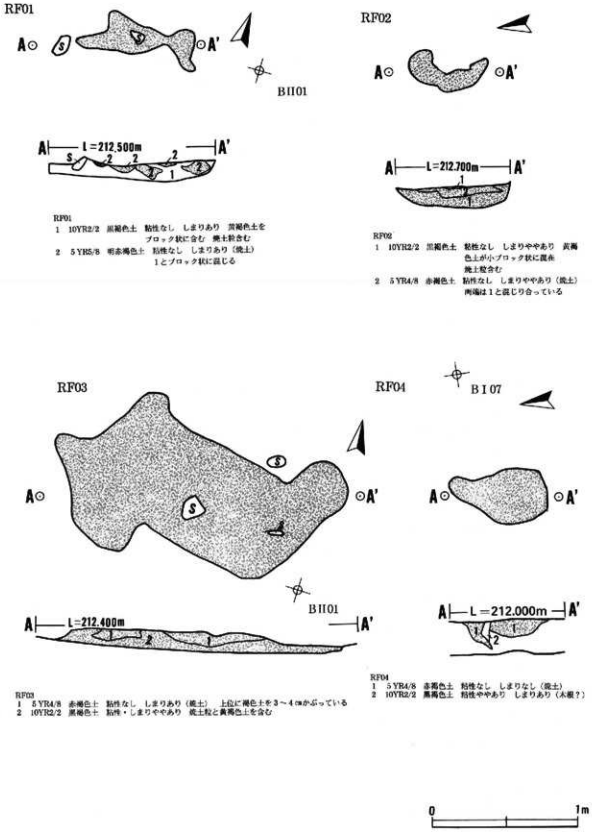
〈検出状況〉ＢⅡ06グリッドの東寄り、一部ＢⅡ01にかかる。Ⅴ層で検出。

〈規模・平面形〉最大幅68cm×40cmの不整形。

〈厚さ〉最大で12cm

〈遺物〉出土していない。

〈時期〉遺物の出土がなく時期特定ができないが、検出した層位及び周囲の状況から、縄文時代のものと思われる。



第９図　焼土遺構（RF01～04）

3．土器・土製品（第10図～20図、写真図版5～15）

今回の調査で出土した土器類の総量は、大コンテナ（42×32×30cm）6箱である。その大半は遺構外からの出土であり、縄文時代早期から前・中・後期までまんべんなくみられるが、晩期そして平安時代の土師器は極少量である。分類は一部遺構内出土の土器も含めて行い、各分類の代表的なものだけを選んで掲載した。

Ⅰ群土器　縄文時代早期の土器を一括した。

本群が主に出土した地区はＡⅡ11･12、ＢⅡ12、ＢⅡ01･02グリッドである。なかでもＢⅡ01付近から集中して出土している。この地点は地山が北東側の川に向かって傾斜し始めている部分であり、層位はⅤ層（黒褐色土）からⅥ層（褐色土）である。付近には焼土遺構（ＲＦ04）がある。

ａ類　沈線文、貝殻腹縁圧痕文、刺突文の三つの文様要素をもち幾何学的文様が展開する。(６)

ｂ類　貝殻腹縁文、沈線とも縦位、横位に展開し文様を方形及び直線的に描くもの。(７)

ｃ類　絡条体圧痕を体部から口縁部、さらに口唇部、及び口縁部裏にもつもの。(８)

ｄ類　貝殻条痕文を地文とし、体部上半には横位に円形刺突の列を数段にわたりもつもので平底。(33、40)

ｅ１類　貝殻条痕文が表裏にみられる。外面にはさらに先端部が不揃いの棒状の工具により施文もしくは調整が加えられており、胎土には金雲母が含まれている。(９～36)

ｅ２類　胎土に金雲母を含み、内面には貝殻条痕文がみられる。外面は棒状工具による沈線と刺突で施文されている。口唇部には半截竹管による刺突がみられる。(37、38)

ｅ３類　表裏とも貝殻条痕文をもつが金雲母は薄かである。外面には鋭角状の刺突列が規則的に並ぶ。(39)

Ⅱ群土器　縄文時代前期の土器を一括した。立体３点、破片17点

ａ類　繊維の混入が認められるもの（41、42、43、44、46、47、48、50、51、54、55、56、57、58、59）

44は口縁部から体部にかけての破片であり、47は尖底状の破片である。これらは同一個体と思われる。

ｂ類　繊維の混入が見られないもの（45、49、52、53、116）

Ⅲ群土器　縄文時代中期の土器を一括した。

ａ類　大木９式に相当するもの。(61、63、64、66、68)

ｂ類　大木10式に相当するもの。(60、62、65、67、69、70、117)

Ｃ類　その他（中期と思われるもの）(118、119、120、121、122、123、124、125)

Ⅳ群土器　縄文時代後期の土器を一括した。立体４点、破片38点

ａ類　後期初頭と思われるもの

ａ１類　沈線によってのみ文様を構成しているもの（72、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、97、98、105）

ａ２類　沈線と刺突により文様を構成するもの（74、79、82、104、106、107、108）

ａ３類　沈線と隆帯により文様を構成するもの（73、99～103）

ａ４類　沈線及び隆帯に貼付をもつもの（80、81、83、84）

ａ５類　無文のもの（77、78）

ａ６類　粗製深鉢と思われるもの（110、111、112、113）

ｂ類　後期中葉と思われるもの（71、75、95、96、109）

Ⅴ群土器　時期不明のもの（76）

ミニチュア土器（126～129、130）

いずれも無文である。126は頸部で窄まり壺を意識したのであろうか底部も含めて形は歪である。但し頸

部以上は欠損している。127は台付の鉢と思われる。胎土に粗砂が多い。128は深鉢か、焼成もよく表面は磨かれている。129も深鉢と思われるが底部と若干の胴下部が残存。130は表面は磨かれている。これは小型壺の口縁部かもしれない。

土製品（131～147）

131、132は鐸形土製品、131は下方3分の1を欠く、縄文に沈線で曲線を描く。132は上部のみ残存しており、沈線でのみ施文されている。

133～135は土偶である。133は四肢と頭部を欠き無文である。頭部の欠落部は脆弱であり本当に頭部があったのかどうかと思われるほどである。134は胸部と頭部の欠落部を残している。頭部は前に張り出す形であったらしい。肩部に続くところに縦に穿孔がなされている。文様は沈線が主であるが裏面に若干の刺突がある。135は胸部と腹部の一部を残している。縦横に刺突列が施されている。肩部に穿孔の跡がかすかに見受けられる。136は不明であるが、土偶の脚部かもしれない

137～147は円盤状土製品に分類した。137は周囲を綺麗に磨いており、或いは蓋とも思われる。147は唯一底部片を再利用したもので、網代痕が見られる。143は沈線であるが、これ以外は縄文である。

4．石器・石製品（第20・21図～26図、写真図版15・16～22）

今回の調査で出土した石器・石製品の総数は142点である。内２点を除き他は遺構外からの出土である。この中から代表的なものを選んで57点を掲載し、器種及び個々の特徴等により分類した。

a．石鏃（掲載９点）…基部の形状による

Ⅰ群　有茎鏃

１類　基部に抉入のあるもの（３、４）

２類　基部が直線的なもの（５）

３類　基部が突出するもの（６）

Ⅱ群　無茎鏃

１類　基部が直線的なもの（７）

２類　基部に抉入のあるもの（８、９、10、11）

b．尖頭器（２点）（12、13）

c．石匙（10点）

Ⅰ群　横長のもの（14）

Ⅱ群　縦長のもの（15、16、17、18、19、20、21、22、23）

d．石篦（３点）（24、25、26）

e．不定形石器（20点）…剥片石器のうち、上記に該当しないものを一括した。

Ⅰ群　両面加工がなされ尖頭器用の先端部をもつもの（29、40）

Ⅱ群　片面加工で２縁辺部に加工がなされ突起部をもつもの（１、28、32、33、43）

Ⅲ群　側面に加工がなされたもの

１類　１側面だけのもの（31、35、42）

２類　対面する２側面のもの（34）

３類　部分的側面加工のもの（27）

４類　３側面加工のもの（55）

Ⅳ群　ほぼ全縁辺を加工しているもの（30、36、37、38、44）

Ⅴ群　全縁辺部を加工していると思われるが欠損して全体像が不明のもの（39、41）

f．磨製石斧（２点）（45、46）

g．磨石（４点）（2、47、48、49）

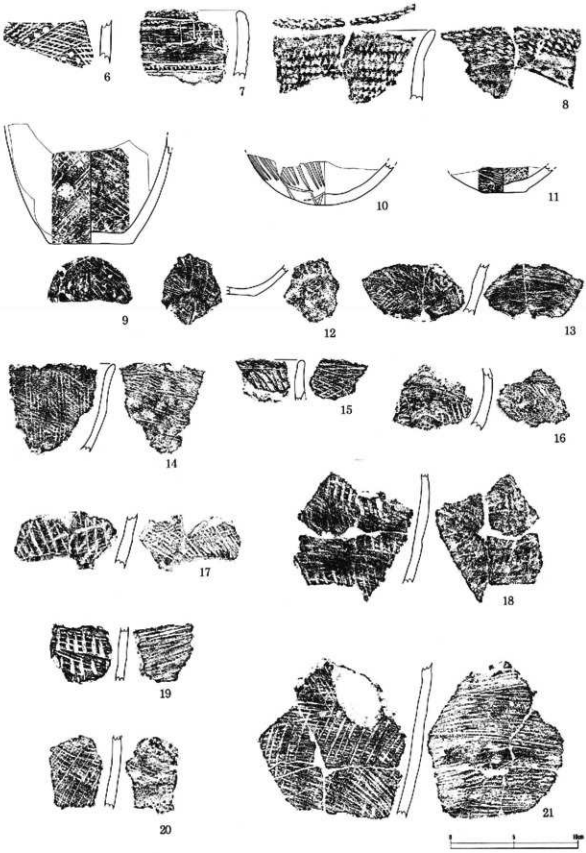
h．凹石（３点）（50、51、52）

３点とも凹面を表裏両面にもち、さらに先端部と側縁部に敲痕をもつ。

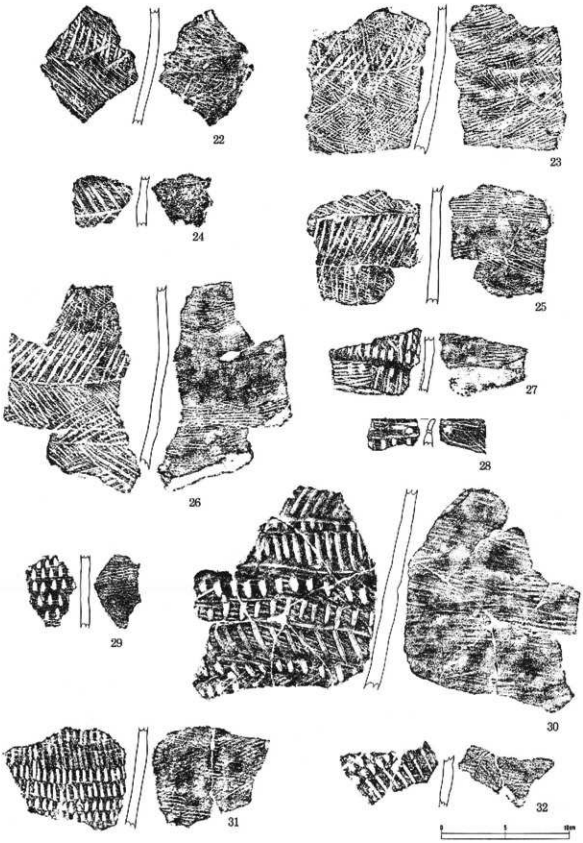
i．半円状扁平打製石器（２点）（53、54）

j．砥石（１点）（56）

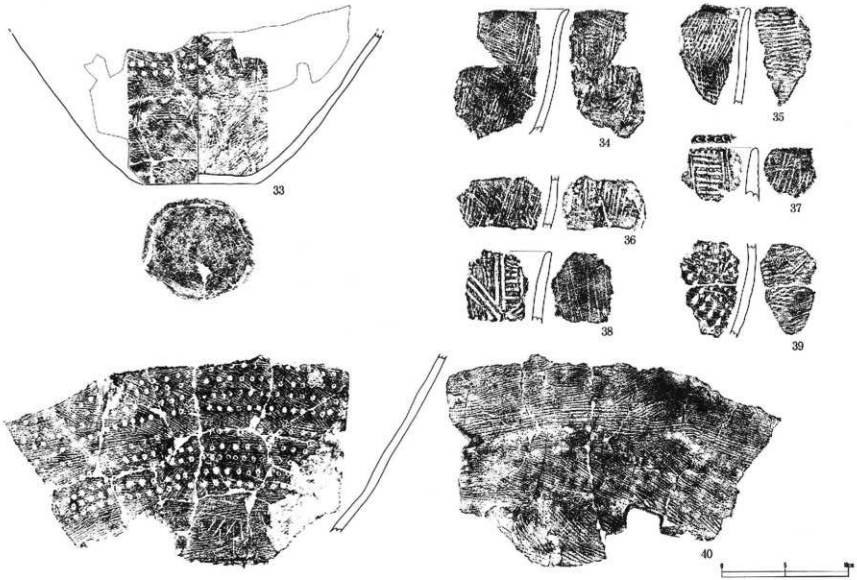
k．円盤状石製品（１点）（57）



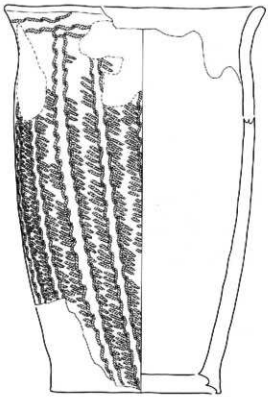
第10図　遺構外出土遺物・土器 (1)

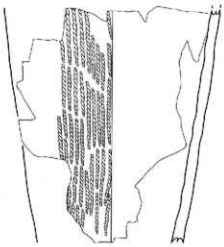


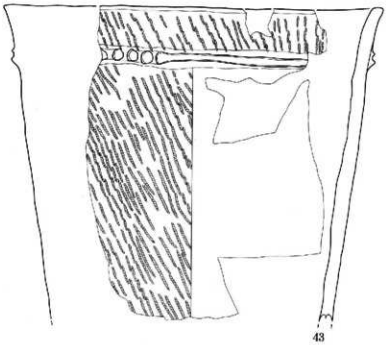
第11図　遺構外出土遺物・土器 (2)



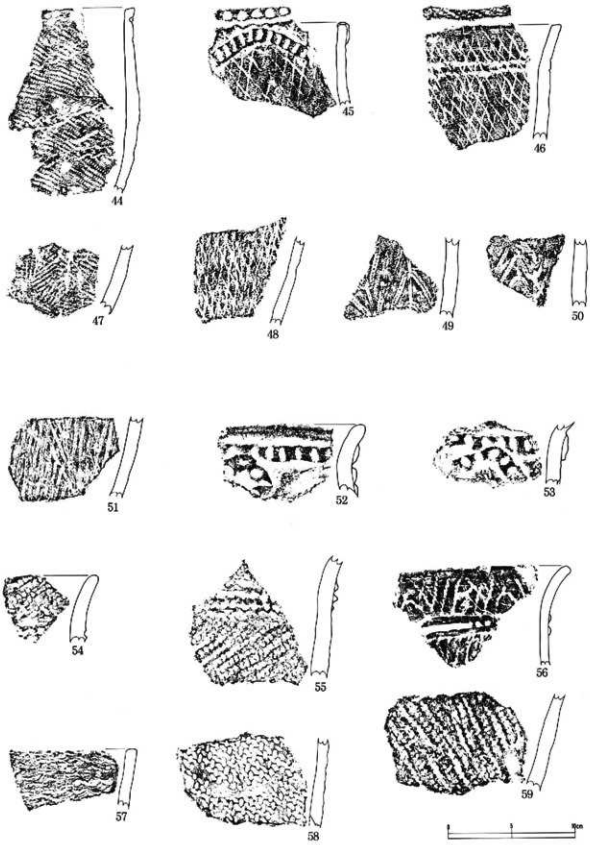
第12図　遺構外出土遺物・土器 (3)



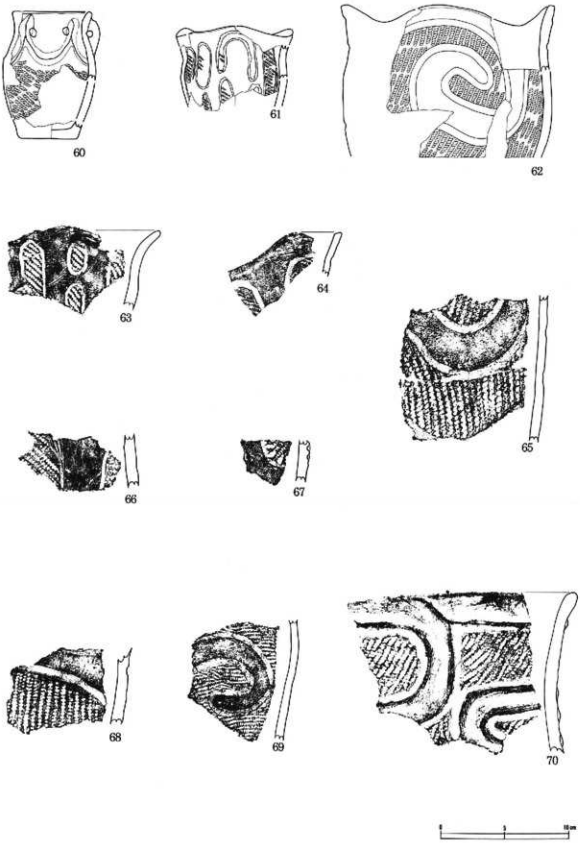




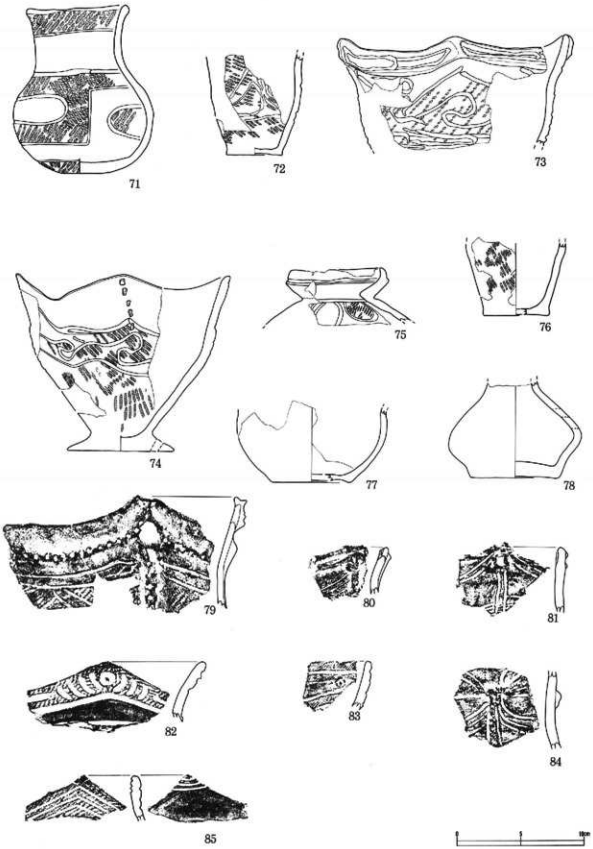
第13図　遺構外出土遺物・土器 (4)



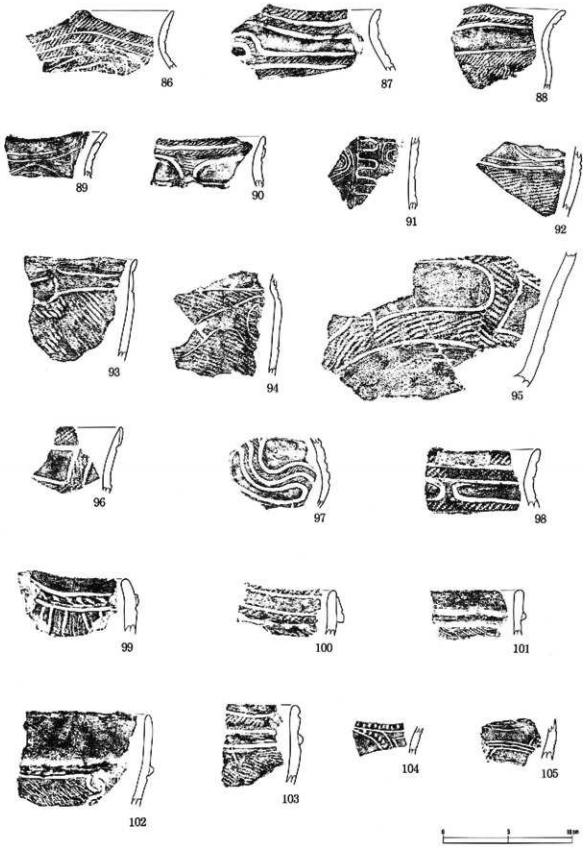
第14図　遺構外出土遺物・土器 (5)



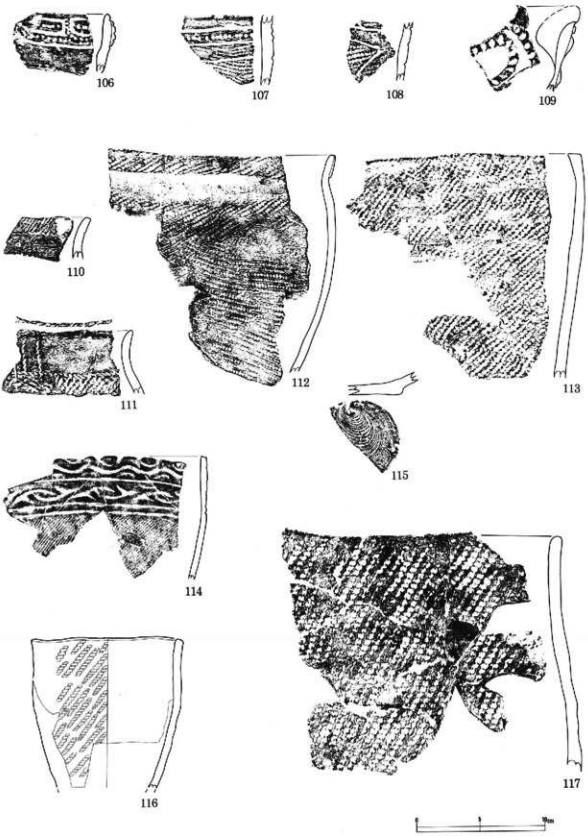
第15図　遺構外出土遺物・土器 (6)



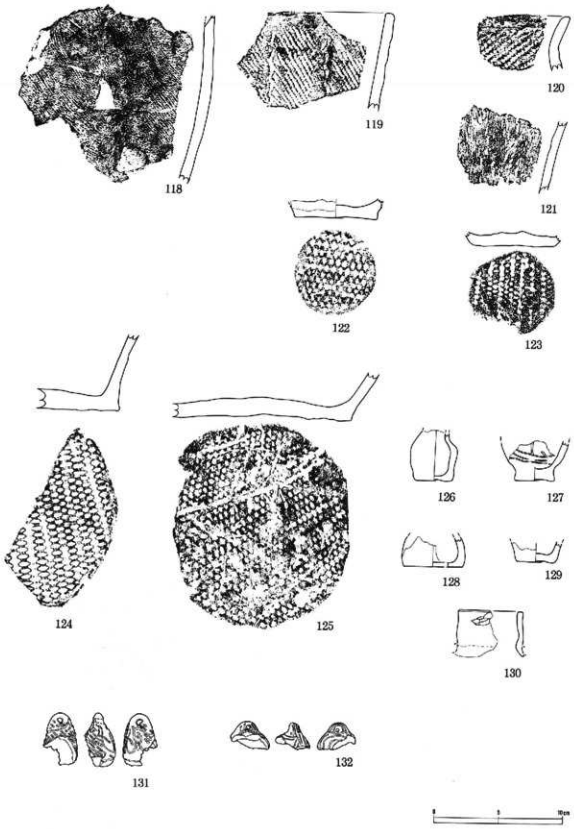
第16図　遺構外出土遺物・土器 (7)



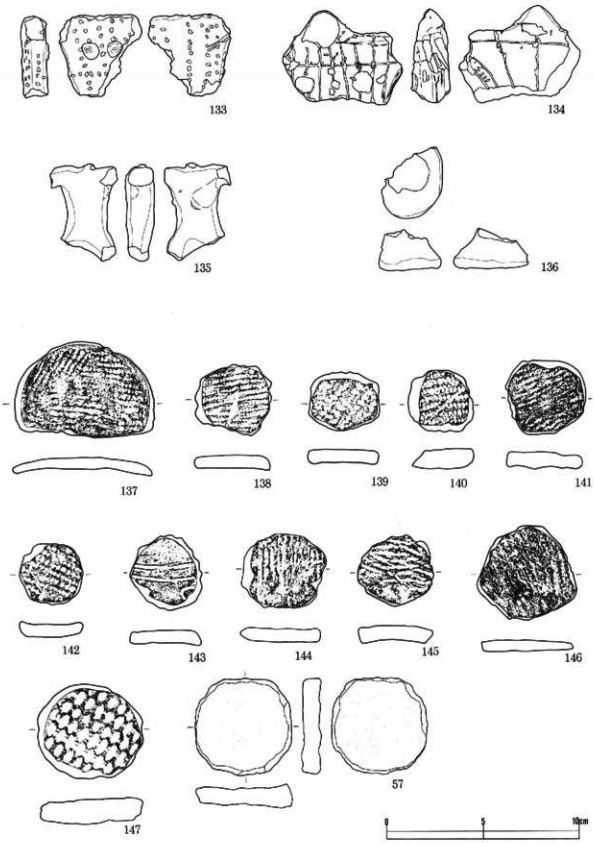
第17図　遺構外出土遺物・土器 (8)



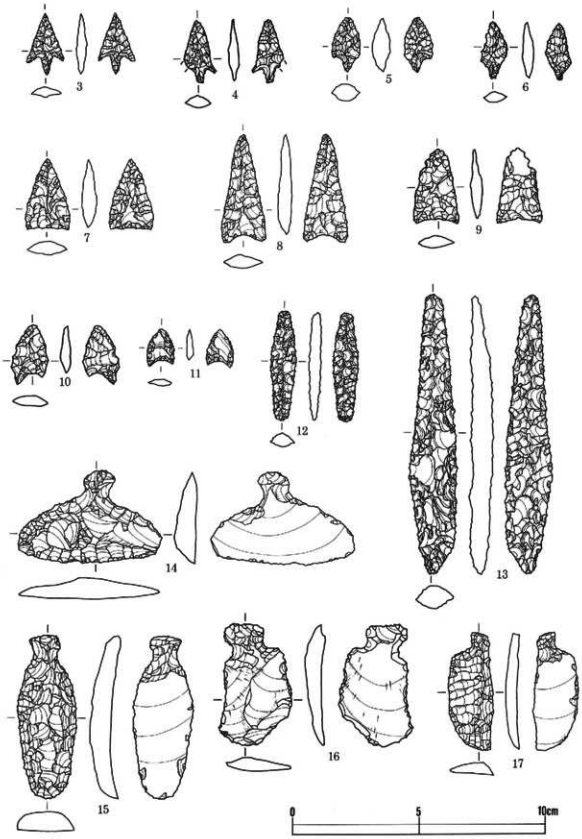
第18図　遺構外出土遺物・土器 (9)



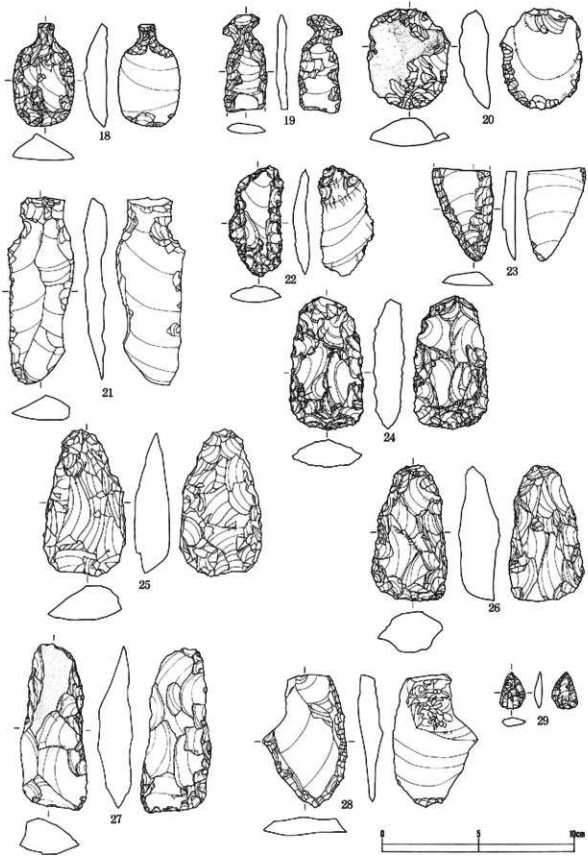
第19図　遺構外出土遺物・土器 (10)、ミニチュア土器、土製品



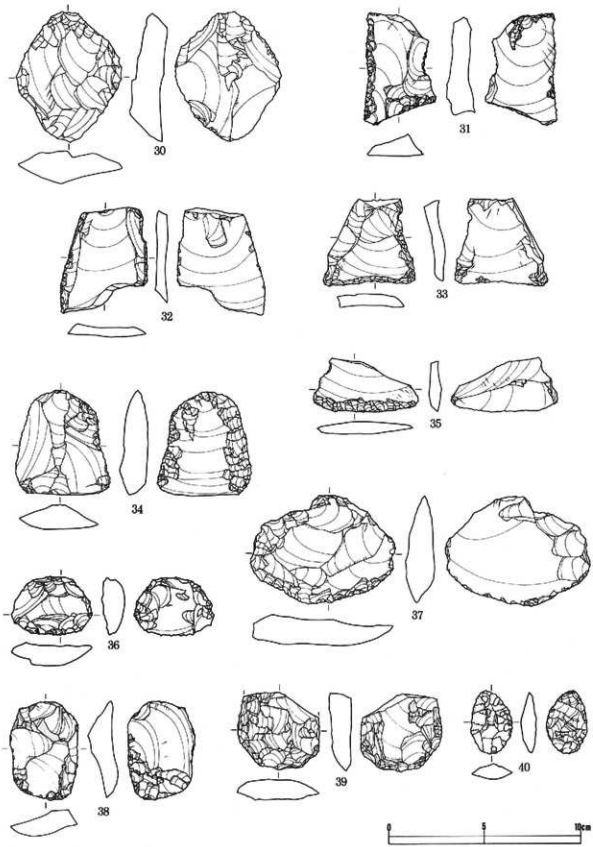
第20図　遺構外出土遺物・土・石製品



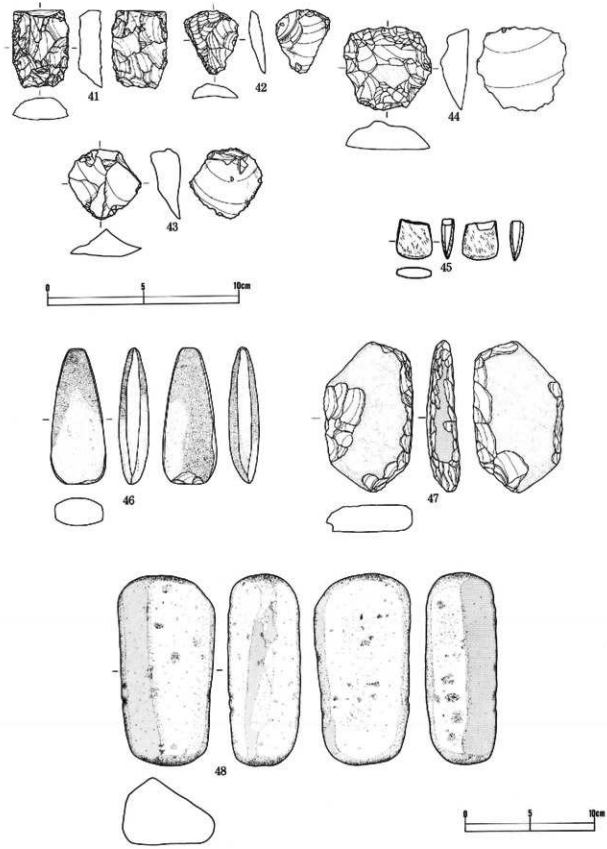
第21図　遺構外出土遺物・石器 (1)



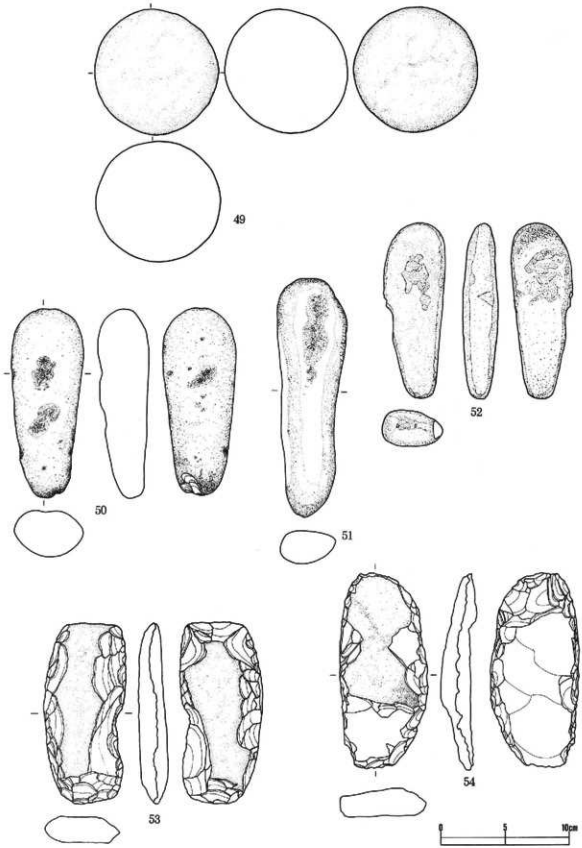
第22図　遺構外出土遺物・石器 (2)



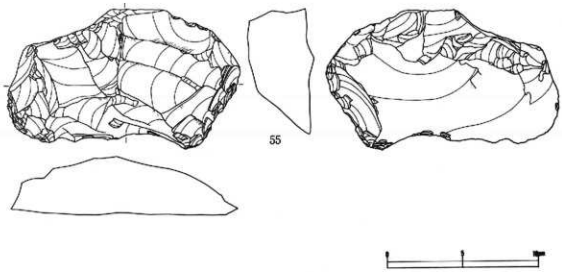
第23図　遺構外出土遺物・石器 (3)

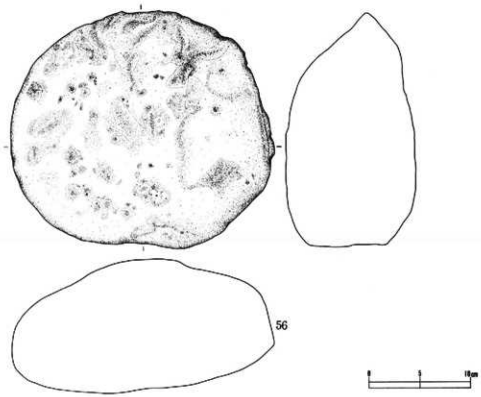


第24図　遺構外出土遺物・石器 (4)



第25図　遺構外出土遺物・石器 (5)





第26図　遺構外出土遺物・石器 (6)

第2表　遺物観察表（土器・土製品）　(1)

図版	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
1	RA01住	深鉢	胴	平縄、沈線で区画、磨消	IIIC
2	RA01住	深鉢	胴	縄文	IIIC
3	RA01住炉	深鉢	胴	無節（Lr横）	IIIC
4	RA01住炉	深鉢	口～胴	複節(RL縦)、口縁部無文帯	IIIC
5	RA01住炉	深鉢	胴	RL横、沈線で区画	IIIC
6	B105II層	深鉢	胴	共貝腹縁文、刺突列、条痕文による幾何学的文様	Ia
7	BH01V～VI層	深鉢	口	只貝腹縁文、貝殻反沈線	Ib
8	BH01～02II～III層	深鉢	口	間隔の開いた格子体甘痕を口縁部表裏、口唇部に施文	Ic
9	BH12V～VI層	深鉢	胴～底	表裏に条痕、内面煤付着	Iel
10	BH01V～VI層	深鉢	底	丸底	Iel
11	BH01V～VI層	深鉢	底	平底、表裏条痕	Iel
12	BH12V～VI層	深鉢	底～胴	平底、内面の条痕は？	Iel
13	BH01V～VI層	深鉢	胴下部	内面条痕は薄い	Iel
14	BH01V～VI層	深鉢	口～胴	金雲母が多量	Iel
15	BH01V～VI層	深鉢	口	口唇部に斜に浅い刻みが入る	Iel
16	BH12V～VI層	深鉢	胴下部	内面煤付着、No18と同一個体？	Iel
17	BH01～02II～III層	深鉢	胴	棒状工具で浅く、縦横に施文	Iel
18	BH12V～VI層	深鉢	胴	内面条痕は薄い、No16と同一個体？	Iel
19	AII11II層	深鉢	胴	棒状工具で格子目状に施文	Iel
20	BH02IV～V層	深鉢	胴	斜に交叉する条痕、内面条痕は薄い	Iel
21	BH02IV～V層	深鉢	胴	棒状工具で斜に、両方向から施文　繊維を含む	Iel
22	BH01～02II～III層	深鉢	胴	No21と同一個体	Iel
23	AII12IV～V層	深鉢	胴	斜に、両方向から不規則な条痕	Iel
24	BH01V～VI層	深鉢	胴	内面煤付	Iel
25	BH02IV～V層	深鉢	胴	棒状工具による羽状もしくは交叉する施文	Iel
26	BH01～02II～III層	深鉢	胴	No25と同一個体	Iel
27	BH01～02II層	深鉢	胴	棒状工具で、縦、斜に施文、輪積痕	Iel
28	BH01V～VI層	深鉢	口	棒状工具で縦に施文？口縁部に施文体、補修孔	Iel
29	BH01V～VI層	深鉢	胴	棒状工具による浅い刺突（押圧）、内面黒色	Iel
30	BH01東南IV層	深鉢	胴	棒状工具による押圧と縦、横の条痕	Iel
31	AII11III層	深鉢	胴	棒状工具で押圧し、下方に引く	Iel
32	BH01V～VI層	深鉢	胴	No31と同一個体	Iel
33	BH01北側VI層	深鉢	胴～底	平底、上下に横位の円形刺突列を数段巡らせる	Id
34	BH01V～VI層	深鉢	口～底	口縁部に沈線で二角の区画、区画内に縦状に櫛状線	Iel
35	BH01～02I～III層	深鉢	口から胴	内面の条痕が目立つ、金雲母は少ない	Iel
36	BH01V～VI層	深鉢	胴	表裏の条痕は不規則、金雲母はかなり	Iel
37	BH01V～VI層	深鉢	U	口唇部にC字状の刺突列、棒状工具による施文と刺突	Ie2
38	BH01V～VI層	深鉢	胴	No37と同種	Ie2
39	BH01V～VI層	深鉢	胴	斜角状の刺突列	Ie3
40	BH01北側VI層	深鉢	胴	No33と同一個体、内面に煤付着	Id
41	AII22IV～V層	深鉢	口～胴	縄縦文、口縁部は横位、胴部は縦位	IIa
42	BH02IV～V層	深鉢	胴	撚糸文(RL)	IIa
43	AII22IV～V層	深鉢	U～胴	撚糸文(RL)口縁部隆帯上に指頭刺突と沈線	IIa
44	AII22IV～V層	深鉢	口～胴	RL横、内面煤、No47と同一個体	IIa
45	BH01V～VI層	深鉢	口	網目状撚糸文、口縁部には指頭の隆帯、U唇部に連続する指頭圧痕	IIb
46	BH06II層	深鉢	U～胴	網目状撚糸文(RL)、口唇部にも施文、口縁部に2条の隆体生痕	IIa
47	AII17III～IV層	深鉢	胴～底	内面煤、No44と同一個体	IIa
48	AII11II層	深鉢	胴	網目状撚糸文(Lr)	IIa
49	AII22IV～V層	深鉢	胴	木目状撚糸文(Lr)、砂粒多い	IIb
50	AII17IV～V層	深鉢	胴	木目状撚糸文(RL)	IIa
51	AII11II層	深鉢	U	木目状撚糸文(RL)	IIa
52	AII22IV～V層	深鉢	口	口縁部隆帯上に指頭圧痕、砂粒多い	IIb
53	BH06II層	深鉢	口	口縁部隆帯上に指頭圧痕、砂粒多い、No52と同一個体？	IIb
54	BH01II層	深鉢	U	頸部隆帯上に刺突列、No55と同一個体？	IIa
55	BH06II層	深鉢	頸～胴	LR横、頸部隆帯上に2条の刺突列、No54と同一個体？	IIa
56	AII11V層	深鉢	口	木目状撚糸文(RL)、頸部隆帯上に刺突と沈線	IIa
57	AII11III層	深鉢	U？	縄絡文横	IIa
58	AII22IV～V層	深鉢	胴	縄縦	IIa
59	AII12IV～V層	深鉢	胴	複節(RLR)横？	IIa
60	BH01II層	小型深鉢	口～底	Lr縦、口縁部に橋状把手（6単位？）、磨消	IIb
61	AII17III～IV層	深鉢	口～胴	Lr縦、波状口縁（3単位？）沈線で縦長に楕円の区画	IIa
62	B105V層上	深鉢	U～胴	RL斜、波状口縁（4単位？）、磨消縄文	IIb
63	BH06IV層	深鉢	口～胴	LR縦、沈線で縦長楕円に区画、磨消縄文	IIa
64	A125II層	深鉢	口	波状口縁、沈線で楕円区画、磨消縄文	IIa
65	AII22IV～V層	深鉢	胴	RL斜、沈線で区画、磨消縄文、砂粒多い	IIb
66	BH01II層	深鉢	胴	LR縦、沈線で区画、磨消縄文	IIa
67	AII22IV～V層	深鉢	胴	単節、沈線区画、磨消縄文と刺突	IIb
68	AII22IV～V層	深鉢	胴	RL斜、沈線で区画、磨消縄文	IIa
69	AII22IV～V層	深鉢	胴	LR斜、沈線で区画、磨消縄文	IIb
70	AII22IV～V層	深鉢	口～胴	RL横、隆帯で区画、磨消縄文	IIb
71	BH01V～VI層	壺	完形	非結束羽状縄文(LR)、頸部無文帯、沈線区画し磨消	IVb
72	AII17II層	小型深鉢	胴～底	LR横、沈線で区画	IVa1
73	AII12II層	深鉢	U～胴	波状口縁、口縁部に隆帯と沈線、胴部は縄文に沈線	IVa3
74	BH02IV～V層	深鉢	口竹深鉢	RL横、波状口縁、口縁部に刺突、沈線で施文、有孔厚手孔	IVa2
75	AII12II層	壺	口～頸	LR、沈線区画、磨消？	IVb

第2表　遺物観察表（土器・土製品）　(2)

図版No.	出土地点	器種	部位	文様の特徴等	分類
76	BⅢ02Ⅳ～Ⅴ層	小型壺鉢	胴～底	縄文	Ⅵ
77	AⅡ22Ⅳ～Ⅴ層	壺？	胴～底	無文	Na5
78	BⅢ01Ⅲ層	壺	胴～底	無文、内面に輪積痕	Na5
79	AⅡ17Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口	波状口縁、隆帯上に刺突列、波頂部に凹み、沈線で施文	Na2
80	AⅡ17Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	口	波状口縁、口縁部に沿って隆帯が波頂部から垂下、沈線で施文	Na4
81	BⅢ01～02Ⅲ層	深鉢	口	波状口縁、波頂部下にボタン状貼付、沈線で施文	Na4
82	AⅡ13Ⅲ層	深鉢	口	波状口縁、口縁部は縄文を地文にし(((○)))状の太い沈線	Na2
83	AⅡ17Ⅲ層	深鉢	口	口縁部に縄文、一部磨消、ボタン状貼付と沈線	Na4
84	BⅠ05Ⅲ層	深鉢	頸～胴	沈線と幅広隆帯	Na4
85	AⅡ11Ⅴ層	深鉢	口	波状口縁、縄文を地文とし3条の平行沈線、波頂部裏にも施文	Na1
86	BⅢ04Ⅲ層	深鉢	口	波状口縁、LR横を地文とし3条の沈線	Na1
87	BⅢ01～02Ⅱ層	深鉢	口	波状口縁、LR横を地文としやや大めの沈線	Na1
88	BⅢ01Ⅲ層	深鉢	口	波状口縁、口縁部に縄文沈線、頸部は磨消し無文帯、胴部LR横	Na1
89	BⅢ11Ⅲ層	深鉢	口	波状口縁、、細い沈線、口唇部の波頂部に刻み目	Na1
90	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口	縄文を地文、磨消	Na1
91	BⅢ12Ⅴ～Ⅵ層	深鉢	胴	沈線でクランクに歩下	Na1
92	AⅡ12Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	胴	LR横を地文、沈線と磨消	Na1
93	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口～胴	口縁部は沈線、胴部は無節(LR縦)	Na1
94	BⅢ02Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	胴	LR縦に沈線	Na1
95	AⅡ22Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	胴	LRを縦と横、沈線で区画内を磨消	Nb
96	AⅡ11Ⅲ層	深鉢	口	縄文を地文とし、沈線で区画内を磨消	Nb
97	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	壺？	胴	縄文を地文とし、3条の平行沈線で曲線、一部磨消	Na1
98	AⅡ11Ⅲ層	深鉢	口～頸	縄文を地文、頸部に方形の沈線区画、磨消	Na1
99	AⅡ17Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	口	緩やかな波状口縁、口縁に平行する隆帯上に刻の刻み目	Na3
100	AⅡ17Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	口	折り返し口縁、縄文を地文、沈線と磨消	Na3
101	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口	口縁部無文帯と胴部を隆帯で区画	Na3
102	AⅡ17Ⅳ層上	深鉢	口	口縁部無文帯と胴部を隆帯で区画	Na3
103	AⅡ17Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口～胴	口縁部と胴部を隆帯で区画、	Na3
104	AⅡ13Ⅲ層	？	胴	沈線と刺突列、朱塗りの跡	Na2
105	AⅡ13Ⅲ層	？	胴	3条の平行沈線、朱塗りの跡	Na1
106	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口	口縁部に方形の区画、区画内外に刺突列	Na2
107	BⅠ15～BⅢ11Ⅲ層	深鉢	胴	LR縦、横に沈線と一条の刺突列	Na2
108	AⅡ17Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	胴	沈線区画内にLR縦、刺突列	Na2
109	BⅢ11Ⅲ層	？	口	波状口縁の突起部？隆帯上に指頭刺突列、みがき	Nb
110	AⅡ17Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口～頸	口縁部文様帯にLR横、頸部無文	Na6
111	BⅢ01～02Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口～胴	口縁部無文帯と胴部文様帯を原体圧痕で区画、口縁部に縦位押圧	Na6
112	BⅢ01～02Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口～胴	折り返し口縁、LR横上縦、頸部はくびれ無文帯	Na6
113	BⅢ01～02Ⅱ層	深鉢	口～胴	LR横、口唇部は平らに調整	Na6
114	BⅢ01～02Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR横、口唇部に刻み目、入り組み三叉文	V
115	BⅢ02Ⅲ層	坏？	底	土師器、ろくろ使用、回転糸切り	Ⅱb
116	AⅡ11Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL縦	Ⅱb
117	AⅡ22Ⅳ～Ⅴ層	深鉢	口～胴	複節(RLR縦)	Ⅱb
118	BⅢ01～02Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	胴	撚い糸条文(RI)、内面擦付痕	Ⅱc
119	AⅡ12Ⅲ層	深鉢	口	縄結文（LR縦？）	Ⅱc
120	AⅡ17Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口	LR横	Ⅱc
121	AⅡ11Ⅲ層	深鉢	胴	撚糸文(RI)	Ⅱc
122	AⅠ25Ⅲ層	深鉢？	底	網代痕	Ⅱc
123	BⅢ11Ⅲ層	深鉢？	底	網代痕	Ⅱc
124	BⅢ01Ⅴ～Ⅵ層	深鉢	胴～底	LR縦、底部網代痕	Ⅱc
125	BⅢ01Ⅴ～Ⅵ層	深鉢	胴	網代痕	Ⅱc
126	AⅡ22Ⅳ～Ⅴ層	ミニチュア	底～胴	無文、壺形	
127	BⅢ02Ⅲ層	ミニチュア	底～胴	無文、台付鉢形、粗砂多い	
128	BⅢ01～02Ⅱ～Ⅲ層	ミニチュア	底～胴	無文、壺形？	
129	BⅢ02Ⅲ層	ミニチュア	底	鉢形？輪積痕底	
130	BⅢ02Ⅲ層	不明		小型壺の頸部？	
131	AⅡ16Ⅲ層	土製品	下隅欠損	錐形土製品	
132	BⅢ07Ⅲ層	土製品	上部	錐形土製品	
133	BⅢ11Ⅲ層	土製品	胸部	土偶	
134	BⅢ11Ⅲ層	土製品	胸部	土偶	
135	BⅠ15～16Ⅲ層	土製品	胴体	土偶	
136	AⅡ11Ⅲ層	土製品	足？	土偶	
137	BⅠ15～16Ⅲ層	土製品	半円状	円盤状土製品？	
138	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	土製品	完形	円盤状土製品	
139	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	土製品	完形	円盤状土製品	
140	BⅠ14Ⅲ層	土製品	完形	円盤状土製品	
141	AⅡ12Ⅳ～Ⅴ層	土製品	完形	円盤状土製品	
142	AⅡ11～13Ⅲ～Ⅳ層	土製品	完形	円盤状土製品	
143	BⅢ02Ⅳ～Ⅴ層	土製品	完形	円盤状土製品	
144	BⅢ02Ⅳ～Ⅴ層	土製品	完形	円盤状土製品	
145	表採	土製品	完形	円盤状土製品	
146	AⅡ17Ⅲ～Ⅳ層	土製品	完形	円盤状土製品	
147	AⅡ22Ⅳ～Ⅴ層	土製品	完形	円盤状土製品	

第３表　遺物観察表（石器・石製品）

図版No.	出土地点	層　位	器　種	分類	長さcm	幅　cm	厚さcm	重量　g	石　質
1	RA01	埋土？	不定形石器	II	9.00	4.80	1.40	64.50	頁岩(北上山地)
2	RA01	埋土？	磨石		8.50	7.80	3.50	150.30	安山岩(奥羽山脈)
3	AII11	II層	石鏃	I 1	4.30	1.80	0.60	3.00	点岩(北上山地)
4	AII16	II層	石鏃	I 1	2.45	(1.30)	0.40	(0.80)	珪質頁岩
5	AII12	II層	石鏃	I 2	2.20	1.10	0.70	1.40	点岩(北上山地)
6	B025	III層	石鏃	I 3	2.25	1.10	0.40	0.70	珪質頁岩
7	B I 10	II層	石鏃	II 1	2.80	1.80	0.60	2.10	点岩(北上山地)
8	AII11	II層	石鏃	II 2	2.50	1.50	0.40	0.60	珪質頁岩
9	BII06	II層	石鏃	II 2	3.00	1.80	0.45	(1.80)	点岩(北上山地)
10	AII12	II層	石鏃	II 2	2.30	(1.50)	0.40	(0.90)	頁岩(北上山地)
11	AII11	V層	石鏃	II 2	1.50	1.10	0.30	0.40	頁岩(北上山地)
12	BII01	II層	尖頭器		(4.40)	1.00	0.50	(1.90)	頁岩(北上山地)
13	BII01	V～VI層	尖頭器		11.10	1.90	0.90	16.10	点岩(北上山地)
14	BII01	V～VI層	石匙	I	3.70	5.70	0.90	12.90	頁岩(北上山地)
15	BII02	II層	石匙	II	6.50	2.30	1.10	16.60	頁岩(北上山地)
16	BII02	II・III層	石匙	II	4.80	2.90	0.70	8.40	頁岩(北上山地)
17	AII12	II層	石匙	II	4.70	1.80	0.50	4.50	頁岩(北上山地)
18	AII17	II層	石匙	II	5.40	3.20	1.20	19.70	頁岩(北上山地)
19	AII12	IV～V層	石匙	II	(5.10)	1.30	0.60	(7.60)	点岩(北上山地)
20	BII02	V層	石匙	II	5.30	4.30	1.45	33.00	玉髄
21	BII02	II層	石匙	II	10.00	3.50	1.20	37.80	頁岩(北上山地)
22	BII11	II層	石匙	II	5.80	2.70	0.80	15.20	頁岩(北上山地)
23	BII02	V層	石匙	II	(4.80)	3.10	0.70	(11.50)	頁岩(北上山地)
24	BII02	II層	石匙		7.00	3.90	1.60	44.00	頁岩(北上山地)
25	BII01	V～VI層	石匙		7.70	4.30	2.00	67.60	点岩(北上山地)
26	BII01	II層	石匙		7.10	3.90	2.15	58.00	頁岩(北上山地)
27	BII01	V～VI層	不定形石器	III 3	8.70	3.60	1.90	52.70	点岩(北上山地)
28	BII07	II層	不定形石器	II	7.00	4.40	1.10	(30.60)	頁岩(北上山地)
29	A I 25	II層	不定形石器	I	1.90	(1.30)	0.48	(1.10)	黒曜石
30	BII01	II層	不定形石器	IV	6.90	5.50	2.00	59.40	頁岩(北上山地)
31	AII11	II層	不定形石器	III 1	5.90	3.80	1.50	26.80	点岩(北上山地)
32	AII11	II層	不定形石器	II	5.60	4.50	0.75	21.40	頁岩(北上山地)
33	BII06	II層	不定形石器	II	4.50	4.80	1.10	18.20	点岩(北上山地)
34	AII17	IV～V層	不定形石器	III 2	5.50	4.90	1.50	41.80	頁岩(北上山地)
35	AII22	III～IV層	不定形石器	III 1	2.80	5.50	0.60	8.90	点岩(北上山地)
36	BII01	II・III層	不定形石器	IV	3.10	4.20	1.15	16.10	頁岩(北上山地)
37	BII16	II層	不定形石器	IV	5.70	7.50	1.50	64.60	頁岩(北上山地)
38	BII01	II・III層	不定形石器	IV	5.20	3.60	1.50	25.50	頁岩(北上山地)
39	AII22	V層	不定形石器	V	(4.10)	4.30	1.15	(24.70)	頁岩(北上山地)
40	C009	III層	不定形石器	I	3.30	2.10	0.91	5.80	玉髄
41	BII01	II～III層	不定形石器	V	(4.10)	2.90	1.20	(19.60)	点岩(北上山地)
42	BII01	V～VI層	不定形石器	III 1	3.30	2.80	0.80	6.20	頁岩(北上山地)
43	B I 13	II層	不定形石器	II	3.70	3.70	1.70	15.80	頁岩(北上山地)
44	BII01	II・III層	不定形石器	IV	4.40	4.60	1.50	29.40	頁岩(北上山地)
45	AII12	IV～V層	磨製石斧		(2.10)	1.80	0.60	(3.30)	砂岩(北上山地)
46	B I 15	層位不明	磨製石斧		10.70	4.10	2.30	161.90	斑糲岩(北上山地)
47	BII02	IV～V層	磨石		12.00	6.80	2.30	287.80	砂岩(北上山地)
48	BII01	II層	磨石		15.00	7.50	5.60	964.70	安山岩(奥羽山脈)
49	C009	III層	磨石		9.90	9.60	9.60	1192.10	花崗斑岩(北上山地)
50	AII18	II層	凹石		14.80	5.30	3.90	486.10	花崗閃緑岩(北上山地)
51	AII22	IV～V層	凹石		18.80	5.50	2.70	(386.20)	砂岩(北上山地)
52	表採	不明	凹石		13.70	4.80	2.70	(244.60)	石英安山岩(奥羽山脈)
53	AII22	IV～V層	半円状扁平打製石器		14.20	6.30	2.10	300.80	安山岩(奥羽山脈)
54	AII11	V層	半円状扁平打製石器		15.20	6.90	2.20	285.70	砂岩(北上山地)
55	BII01	II層	不定形石器	III 4	9.20	15.40	4.55	574.60	頁岩(北上山地)
56	B I 12	II層	台石		23.00	25.80	12.50	5778.60	安山岩(榛岩)(奥羽山脈)
57	AII12	II層	石製品		5.10	5.00	1.00	37.70	凝灰岩

Ⅴ．まとめ

芦名沢川を隔てた対岸には平成９年度に調査が行われた芦名沢Ⅰ遺跡がある。芦名沢Ⅰ遺跡は南面する緩斜面に位置し好条件の立地であるのに対し、本遺跡は芦名沢川により形成された扇状地の扇央部に位置し山間の窪地的な条件の場所である。しかもすぐ側を芦名沢川が蛇行し、洪水の被害も予想される所である。

現在の立地条件をそのまま、遺構が営まれた時期に当てはめるわけには行かないが、芦名沢Ⅰ遺跡と比較して生活条件には恵まれていないことだけは確かである。

今回の調査では、主として縄文時代の遺構・遺物が検出されており、これらについて若干のまとめを行い報告を終えることとする。

１．遺構

⑴住居

竪穴住居跡１棟のみである。前述のように圃場整備によるものと思われる削平をうけており、かろうじて炉石の検出をもって住居跡と認定できた。複式炉と床面及び壁溝の一部と柱穴２基だけの残存状況であった。

複式炉は当初、ロの字型の石囲部とそこからややハの字状だがほとんど長方形ともいえる前庭部のみであると思われたが、石囲部の外側に焼土を検出し、ここに石囲部から炉石の一部が延びいたためここを燃焼部と認定した。石囲部は一段低くなっており、底部には石が敷かれていた。ここからは若干の炭化物が出土している。前庭部は両側を石で囲みほぼ直線的に住居の縁辺部に接している。

この住居は平坦面から川に向かって傾斜になる縁の所に作られており、前庭部は傾斜の下方に向けられていた。

⑵焼土

４基検出したが３基はＡⅠ25グリッド近辺に隣接し、層位はⅡｂ層で、ほとんど同時期のものと思われる。縄文上器片が数点出土しているが、これより下の層から陶磁器片が出土していることと、Ⅱｂ層は整地により動いていること等から、比較的新しいものと思われる。

他の１基は、地山が平坦面から川に向かって傾斜する上に堆積したⅤ層での検出である。遺物は出土していないが周囲の同じ層位から早期の土器が出土しているため、縄文時代のものと判断した。

以上、これらの遺構は何れも川縁にあり、洪水のおそれが予知される所である。にもかかわらず、生活の痕跡が認められるということは、当時の地形が現在とは違っていた可能性も考えられる。

２．遺物

住居にともなうものと思われる縄文時代中期末の土器は出土しているが、量的には後期前葉のものが多く出土している。また前期、早期の土器も出土しており、特に早期の土器はまとまった資料が得られた。その多くは表裏に条痕が施され、金雲母を胎土に含む、ムシリ系のものであり、一部には沈線と刺突を持つものも含まれる。近辺では盛岡市大館遺跡群から早期の押型文を主体に、沈線文系の土器が出土しているが、昭和62年度、平成６・７年度調査で条痕文系の土器の出土が報告されている。

石器では円筒土器文化圏といわれる平円状扁平打製石器が出土しているが、円筒土器そのものは今回の調査では出土していない。

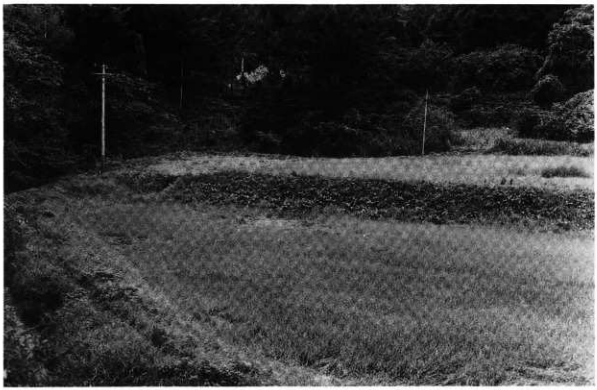
最後になるが、土層断面に粗粒の暗灰色スコリアが堆積しているのが認められている。これはすでに芦名沢Ⅰ遺跡で報告されている16～17世紀の畝間状遺構と同じもののようであり。今回の調査では平面的には検出することができなかった。

〈参考文献〉

「村誌　たまやま」	1979	玉山村役場
「岩手県の地名」　日本歴史地名大系　第三巻	1990	平凡社
「岩手県」　角川日本地名大辞典3	1985	角川書店
「才津沢遺跡発掘調査報告書」	1998	(財)岩手県埋蔵文化財センター
「間洞II遺跡発掘調査報告書」	1997	(財)岩手県埋蔵文化財センター
「大館遺跡群」大館町遺跡、大新町遺跡		
―昭和62年度発掘調査概報―	1989	盛岡市教育委員会
「大館遺跡群」大館町遺跡		
―平成6・7年度発掘調査概報―	1997	盛岡市教育委員会
「芦名沢I遺跡発掘調査報告書」	1999	(財)岩手県埋蔵文化財センター
「縄文時代研究事典」	1996	東京堂出版
「縄文土器大観」1	1994	小学館
「日本先史土器の縄紋」	1979	先史考古学会
「図録・石器入門事典」〈縄文〉	1994	柏書房
「売場遺跡発掘調査報告書」	1975	青森県埋蔵文化財調査センター

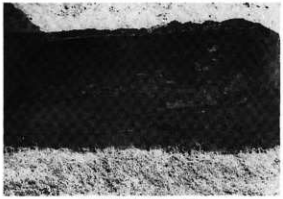
写 真 図 版

写真図版１　遺跡遠景（航空写真）



調査前風景

基本層序



調査区北東部土層断面

調査区北東部

調査区南西部

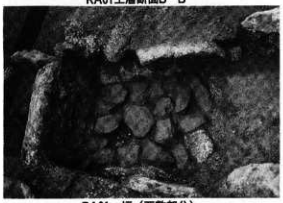
写真図版2　調査区

RA01全景

RA01土層断面A－A'

RA01土層断面B－B'

RA01　炉



RA01　炉（石敷部分）

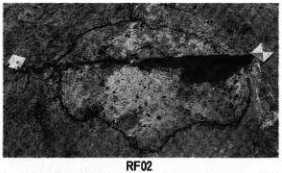
RA01炉断面D－D'

RA01炉断面C－C'

写真図版３　RA01 竪穴住居跡

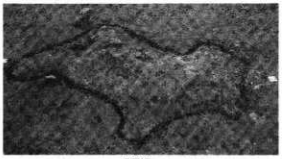
RF01

RF01断面

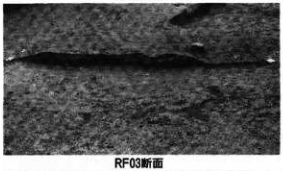


RF02

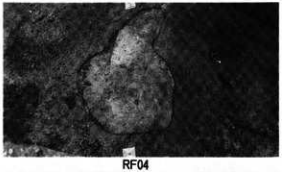
RF02断面



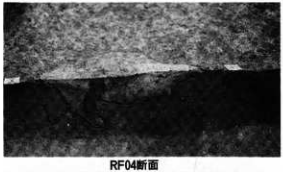
RF03



RF03断面



RF04

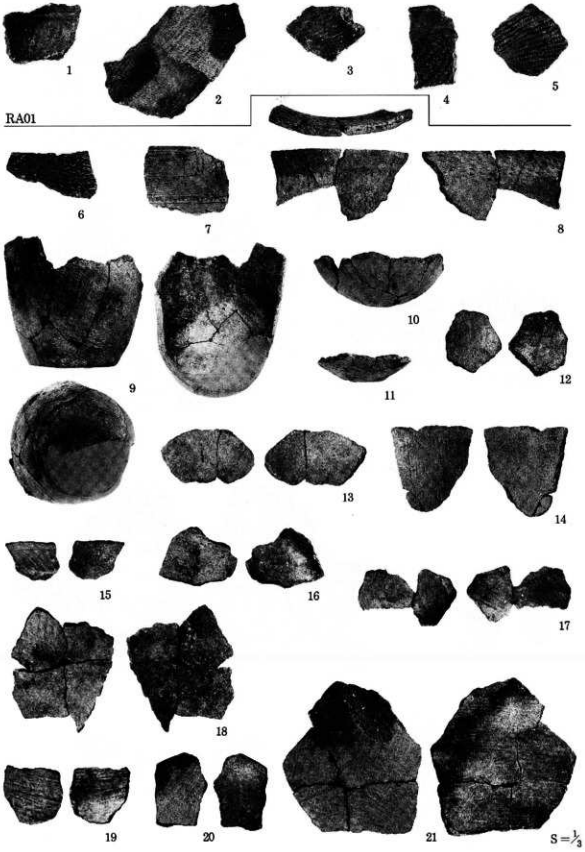


RF04断面

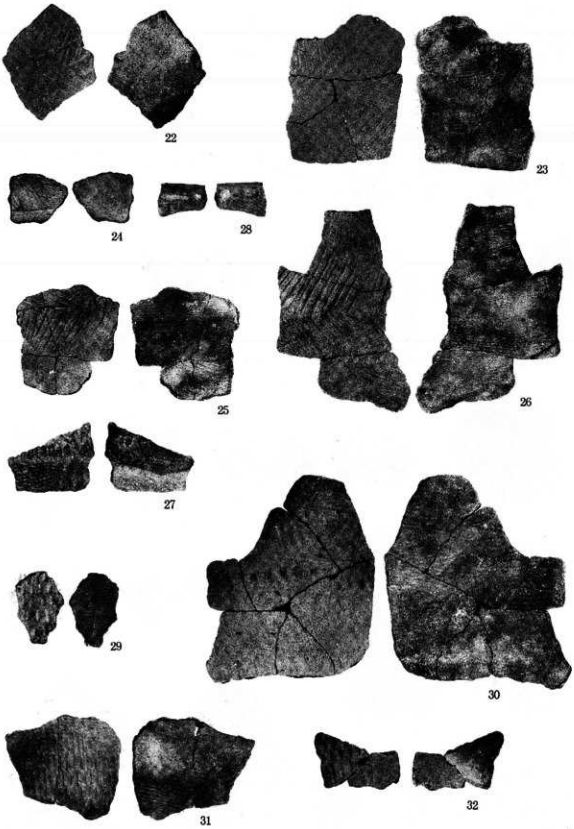
縄文土器（早期）出土状況

縄文土器（早期）出土状況

写真図版4　焼土遺構・土器出土状況

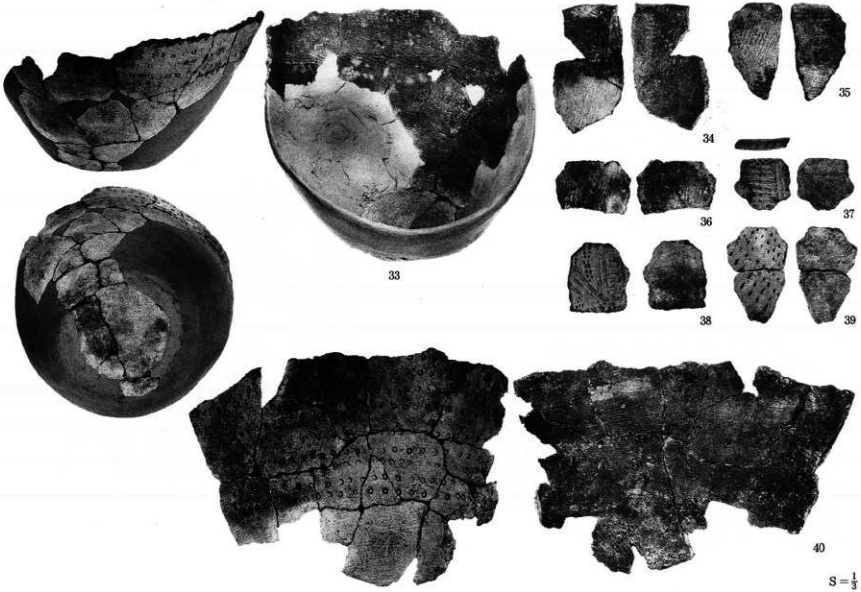


写真図版5　RA01出土遺物、遺構外出土遺物・土器 (1)



S＝$\frac{1}{3}$

写真図版６　遺構外出土遺物・土器 (2)



写真図版7　遺構外出土遺物・土器 (3)

41

42

43

S＝$\frac{1}{3}$

写真図版８　遺構外出土遺物・土器 (4)

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

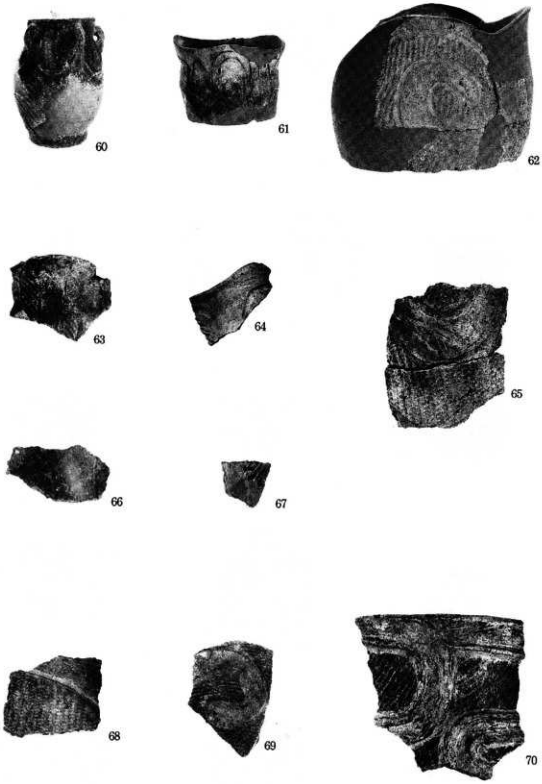
57

58

59

S＝$\frac{1}{3}$

写真図版９　遺構外出土遺物・土器 (5)



S＝$\frac{1}{3}$

写真図版10　遺構外出土遺物・土器 (6)

71

72

73

74

75

78

76

77

79

80

81

83

84

82

85

S＝$\frac{1}{3}$

写真図版11　遺構外出土遺物・土器 (7)

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

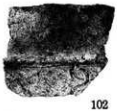
97

98

99

100

101


102

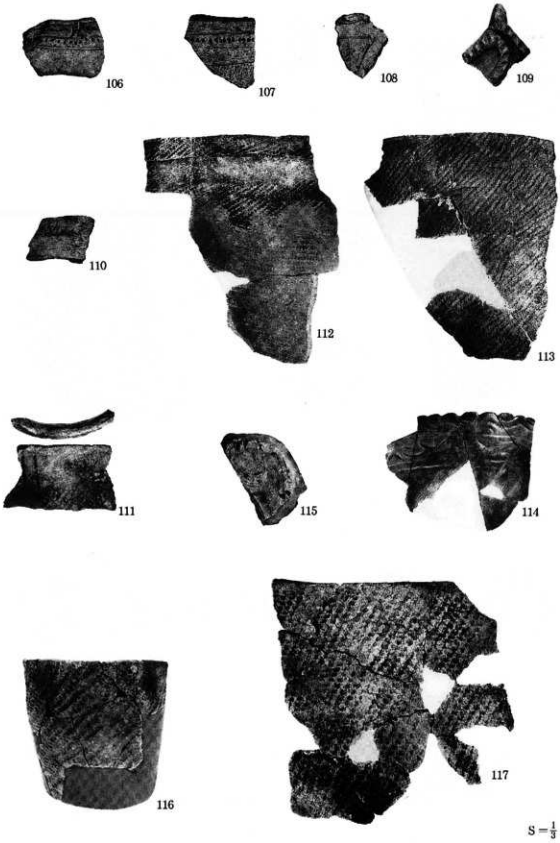
103

104

105

S＝$\frac{1}{3}$

写真図版12　遺構外出土遺物・土器 (8)



写真図版13　遺構外出土遺物・土器 (9)

118

119

120

121

122

124

123

125

126

127

128

129

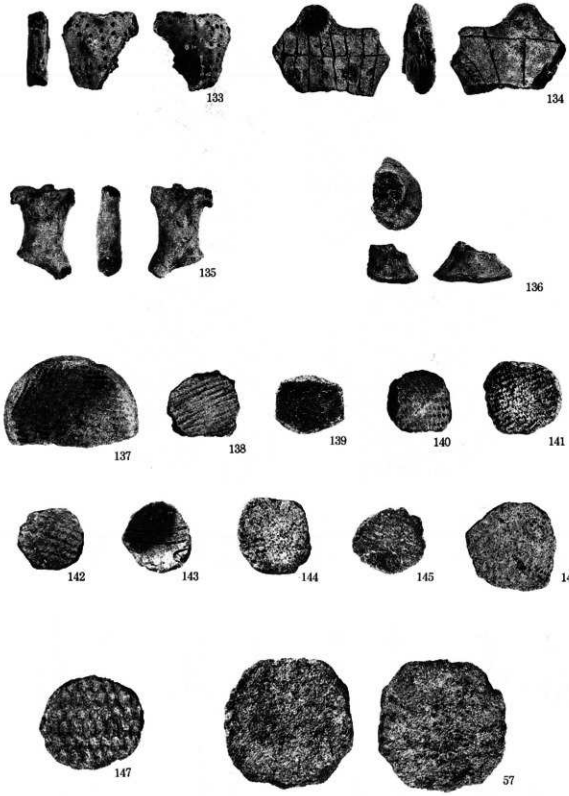
130

131

132

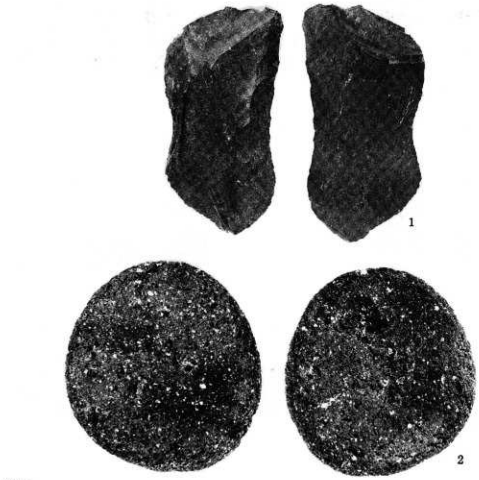
S＝118～125 $\frac{1}{3}$
126～132 $\frac{1}{2}$

写真図版14　遺構外出土遺物・土器 (10)ミニチュア土器



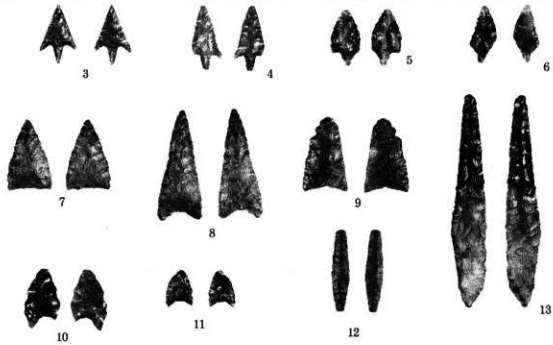
S＝$\frac{1}{2}$
57…$\frac{2}{3}$

写真図版15　遺構外出土遺物・土・石製品



S＝$\frac{2}{3}$

RA01



S＝$\frac{2}{3}$

12・13…$\frac{1}{2}$

写真図版16　RA01出土遺物、遺構外出土遺物・石器（1）

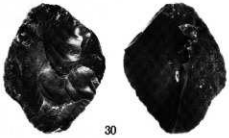
S＝$\frac{1}{2}$
26…$\frac{2}{3}$

写真図版17　遺構外出土遺物・石器 (2)

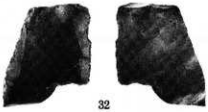
27

28

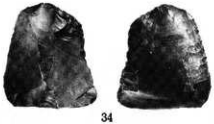
29

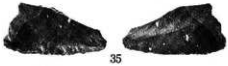

30

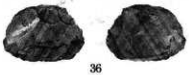
31


32

33


34

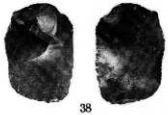

35

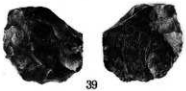

36

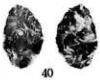
37

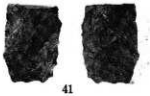
S＝$\frac{1}{2}$
27…$\frac{2}{3}$

写真図版18　遺構外出土遺物・石器 (3)


38


39


40

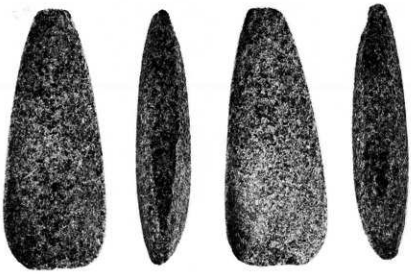

41

42

43

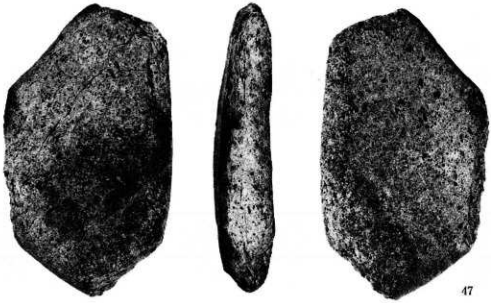
44

45

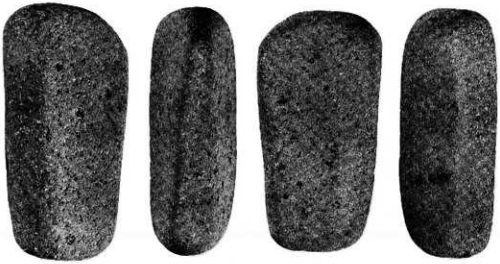

46

S＝$\frac{1}{2}$
46…$\frac{2}{3}$

写真図版19　遺構外出土遺物・石器 (4)



47

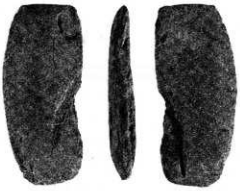


48

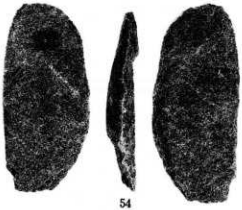
47…$\frac{2}{3}$
48…$\frac{4}{9}$

写真図版20　遺構外出土遺物・石器 (5)

写真図版21　遺構外出土遺物・石器 (6)



53



54

55

56

S＝$\frac{1}{3}$

写真図版22　遺構外出土遺物・石器 (7)

報告書抄録

ふりがな	あしなざわにいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	芦名沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書
副書名	東北新幹線盛岡～八戸間建設工事関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第322集
編著者名	
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185　℡（019）638－9001
発行年月日	西暦2000年1月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
芦名沢Ⅱ遺跡	岩手県岩手郡 玉山村大字鵜飼 字芦名沢34－ 2ほか	03307	KE－ 47－1367	39度 52分 36秒	141度 12分 19秒	19981001 19981029	590㎡	東北新幹線盛岡～八戸間建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
芦名沢Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　1棟	縄文土器（早・前・中・後・晩期）　6箱 石器　142点 土偶・土製品	縄文時代中期後葉の複式炉を持つ住居跡 縄文時代早期後葉の土器

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所　　長　佐藤　基
副　所　長　伊藤　直司

〔管理課〕

課　　長　川浪　清徳
主　　査　立花　多加志
主　　事　日影　睦大

〔調査第一課〕

課　　長　小田野　哲憲
課長補佐　佐々木　清文
主任文化財専門調査員　酒井　宗孝
〃　小山内　透
文化財専門調査員　中田　迪
〃　吉田　充
〃　鎌田　勉
〃　小笠原　健一郎
〃　鳥居　達人
〃　濱田　宏
〃　佐々木　進悦
〃　安藤　由紀夫
〃　木戸口　俊子
〃　小野寺　正之
〃　阿部　勝則
〃　千葉　正彦
〃　羽柴　直人
〃　高木　晃
〃　佐藤　淳一
〃　菅原　靖男
〃　半澤　武彦
〃　朝倉　雄大
〃　菊池　貴広
〃　村上　拓
〃　本多　準一郎
〃　中村　直美
〃　丸山　浩治
期限付職員　佐藤　綾子
専門職員　平　めぐみ
〃　北田　勲
〃　江藤　敦
〃　小林　弘卓
〃　小原　広幸

嘱　　託　藤島　恵子
〃　新田　トヨ
〃　佐々木　光重

〔調査第二課〕

課　　長　高橋　與右衛門
課長補佐　中川　電紀
主任文化財専門調査員　高橋　義介
文化財専門調査員　古舘　貞身
〃　阿部　眞澄
〃　松尾　芳幸
〃　小原　興一
〃　工藤　徹
〃　前田　稔
〃　金子　佐知子
〃　岩渕　計
〃　早坂　哲
〃　佐々木　務
〃　晴山　雅光
〃　星　雅之
〃　佐々木　琢
〃　杉沢　昭太郎
〃　溜　浩二郎
〃　北村　忠昭
〃　金子　昭彦
期限付職員　鈴木　聡
専門職員　平澤　里香
〃　布谷　義彦
〃　山口　俊規
〃　熊谷　佳恵
〃　吉田　里和
〃　藤原　賢徳
〃　吉川　徹

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第322集

芦名沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北新幹線盛岡・八戸間建設工事関連遺跡発掘調査

印刷　平成12年1月13日
発行　平成12年1月20日

発行　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　盛岡市下飯岡11地割185
℡　(019) 638－9001
FAX　(019) 638－8563
印刷　株式会社　白ゆり
〒020-0122　盛岡市みたけ6丁目1－50
℡　(019) 643－6060

©㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000